

JFA

日本フリスビードッグ協会会報

2008 January

URL <http://www.frisbeedog.co.jp/>

SKY DOG[®] SPORT

vol.17

グランドチャンピオンシップ 初出場、初優勝!

JAPAN FINAL 2007 in HYOGO 特集号

INDEX

Discdog Worldcup Challenge 2007
JAPAN FINAL 2007 in HYOGO

JAPAN FINAL 2007 in HYOGO

2007.11.23-25

at 播磨科学公園都市



新年明けましておめでとうございます。新春を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。

2008年度シーズンは、協会設立から15年目の年となります。“フリスビードッグ”という言葉は全国的に認知されてきてはおりますが、まだまだマナー・モラルという部分に於いては、更に好印象を広めていかなければならないと思っております。競技会に参加の皆様にも、一人ひとり、愛犬との「絆」を大切にいただき、フリスビードッグの素晴らしさ・楽しさをアピールしていただければ幸いです。

さて、会報新年号は、“ジャパンファイナル2007”及び、韓国にて開催された“世界選手権”の特集号です。

第14回を迎えるジャパンファイナル日本一決定戦。2007年度の舞台となったのは兵庫県「播磨科学公園都市」。普段はプレーヤーを翻弄する播磨会場独特の風も無く、絶好のコンディションの中で、全国各地からノミネートを受けた選手達が熱戦を繰り広げました。

今大会の誘致・運営にご協力いただいた皆様、そして、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。また、年間を通してご協賛いただいた協賛スポンサー各社様にも、心よりお礼申し上げます。

DAY-1 2007.11.23(金・祝)

●晴、弱風

●ユースオープンの部・シニアドッグの部・ペアの部

■ユースオープンの部

ユース部門は、本年度で5回目のジャパンファイナルを迎える新しい部門で、年々参加者数も増えている、いわば公式へのステップアップ直下のカテゴリーでもあり、ノミネートを受けた選手の中には既に公式戦へステップアップしたチームも含め、強豪ぞろいの面々が顔を連ねました。

そして、北海道から九州の代表選手のノミネート数は、ユース史上最高の149チームでの決定戦となりました。

149分の1を争う個人戦、そしてユース部門は各都道府県

別における団体戦としての日本一を決定します。開会式では、昨年度団体戦優勝北海道チームより優勝旗の返還が行われ、本年度はどの都道府県にこの優勝旗が手渡されるかも大きな見所といえます。

ユース部門149チームの予選ラウンドの始まり。全チームが1ラウンドを終了するには4時間半もの時間を要する為に、天候・風の状況の変化が懸念されることもあります。幸い大きな変動も無く好コンディションでの予選の戦いが繰り広げられました。予選2ラウンドを行い決勝ラウンドへ駒を進めるのは僅かに7チーム。予選を突破するには予選2ラウンド合計60ポイントを上回ったチームとなり、予想通り高いレベルでの予選ラウンドとなりました。

結果は、2007年度ユースオープン5大会合計のトップランカー、須貝信也&Lienチームがその実力を見せての優勝。ユース部門日本一の座を勝ち取りました。第2位には、新津芳博&Wild Beastチーム。第3位には、谷越久仁夫&環菜チーム。

そして、団体戦においては決勝進出をしたが、惜しくも入賞は果たせなかったもののチームに貢献した上田彰&SANTAチーム率いる大阪II(上田彰&SANTA/森脇俊昭&REAL/井手元ルミ&みゆら/河野和則&ラブ/高桑真紀&☆B☆)チームが、5チーム安定してポイントを獲得し、平均ポイントを2位との差2.4ポイントつけて41.4ポイントでの優勝となりました。



■シニアドッグの部

7歳以上の愛犬を率いてのチームでの日本一決定戦。ジャパンファイナル2007のノミネート数は23チームとなりました。シニアドッグとはいえ、まだまだ現役を思わせる犬達。

11月の肌寒い気候は、愛犬にとっては良い時期ということもあり、シニアドッグ部門でも好ゲームが繰り広げられました。予選では、1ラウンドアベレージ25ポイントという高ポイントをマークしなければ決勝進出にならず、シニアドッグといえどもハイレベルな戦い。決勝ラウンドへ進んだチームには、2005年度シニアドッグ部門チャンピオンや2006年度シニアドッグ部門ファイナリストを含め蒼々たるメンバーでした。結果、宮迫裕二&IVYチームが優勝。シニアドッグ部門日本一の座を勝ち取りました。第2位には、村上幸三&ゲルファチーム。第3位には、山本勝&モネチームとなりました。



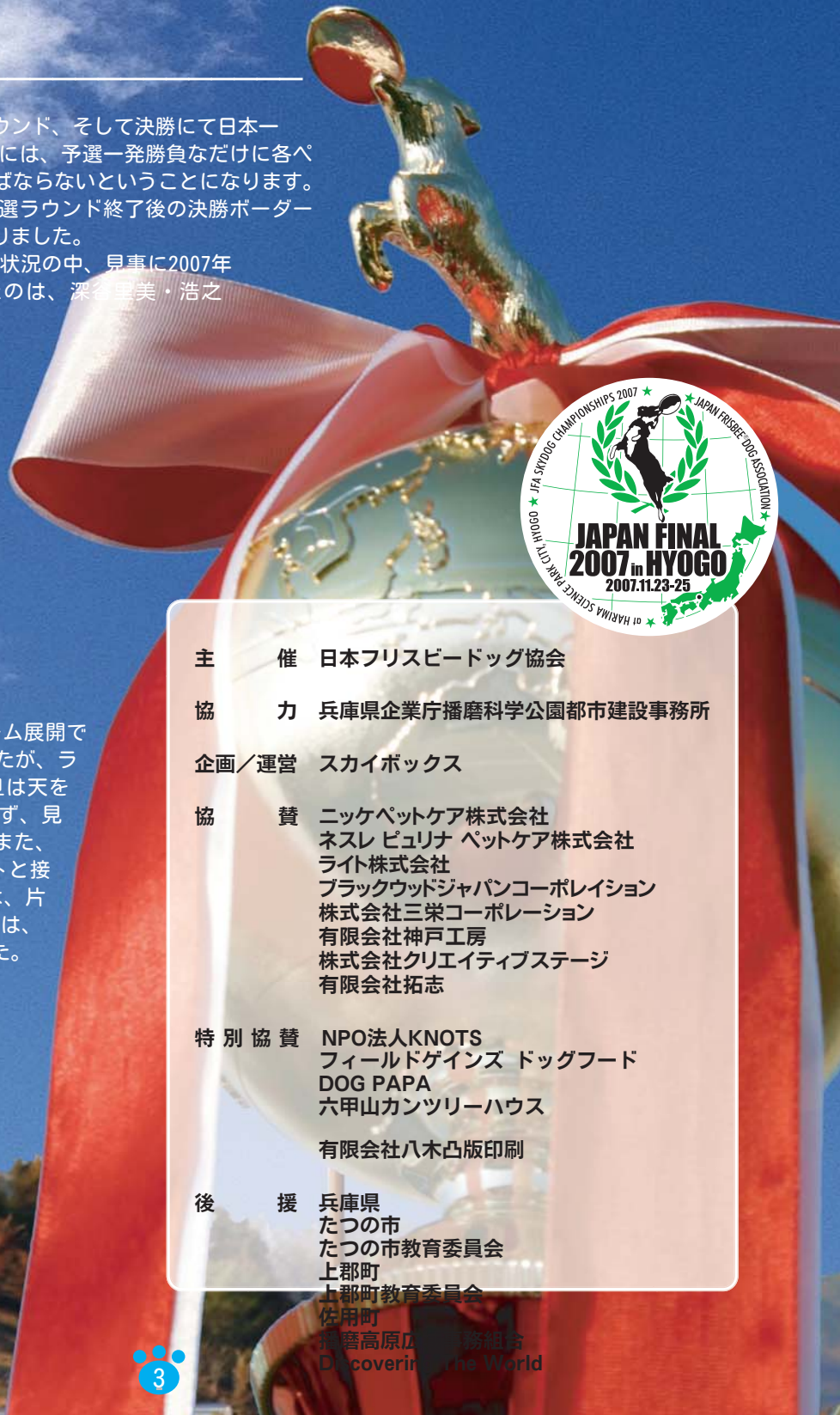
■ペアの部

全国ノミネートされた20チームが予選1ラウンド、そして決勝にて日本一を決定します。決勝進出3チームの枠に入るには、予選一発勝負なだけに各ペアが今年一番の息の合うプレーを見せなければならないということになります。毎年激化するペア部門と言うこともあり、予選ラウンド終了後の決勝ボーダーとなるポイントは、過去最高のポイントとなりました。

決勝ラウンドでは、ワンミスも許されない状況の中、見事に2007年度ペア部門のチャンピオンの座を勝ち取ったのは、深谷里美・浩之&TIGAチーム。



決勝ラウンド、ポイント優勢で進んだゲーム展開でしたが、残り11~12秒で果敢時間調整を投じたが、ラスト一投に及ばず、優勝を逃したかと、一旦は天を仰いだものの、後続のチームがポイント及ばず、見事にペア部門日本一の座を獲得しました。また、第2位・3位は、決勝を終わって同ポイントと接戦。エクストララウンドの結果、第2位には、片岡千賀子・中村哲士&恋子チーム。第3位には、松原政代・早希&アスターチームとなりました。



主 催	日本フリスビードッグ協会
協 力	兵庫県企業庁播磨科学公園都市建設事務所
企画/運営	スカイボックス
協 賛	ニッケペットケア株式会社 ネスレ ピュリナ ペットケア株式会社 ライト株式会社 ブラックウッドジャパンコーポレーション 株式会社三栄コーポレーション 有限会社神戸工房 株式会社クリエイティブステージ 有限会社拓志
特 別 協 賛	NPO法人KNOTS フィールドゲインズ ドッグフード DOG PAPA 六甲山カンツリーハウス 有限会社八木凸版印刷
後 援	兵庫県 たつの市 たつの市教育委員会 上郡町 上郡町教育委員会 佐用町 播磨高原広域事務組合 Discovering the World

第一日目に引き続き、好天の中行われたチャンピオン決定戦は、レディースチャンピオンシップ・スモールドッグチャンピオンシップ・こども部門の3カテゴリー。そして、恒例の記念大会が行われました。

■レディースチャンピオンシップ

出場する犬種は問わず、選手が女性のみとなっているカテゴリーがレディースチャンピオンシップ。真に女の戦い最終決戦54チームの競い合いがスタートしました。

予選第1ラウンドの風は向かい風。その影響もあり、ポイントがあまり伸びてこない。各チームにとって技術を要するラウンドとなり、第2ラウンドへ繋げることも視野に入れての争いとなりました。

予選第2ラウンドも会場特有の"風向きが変わる"またしても向かい風。

決勝ラウンド進出7枠をかけて、各チーム思い切って勝負をかけてくる。大混戦の中、決勝進出ボーダーラインのポイントは51ポイント。予選ラウンド安定したゲーム内容で7チームが出揃った。東北・関東・関西・中国・九州から1チームずつ。そして今回が初出場となる東海2チーム。ファイナリストのポイント差は15ポイントと若干ポイント差はありますが、決勝ラウンドとなれば更なるプレッシャーと緊張が増してくるのは当然のこと。逆転優勝も可能な数字を残して、いよいよ決勝ラウンドがスタートしました。予選トップ66ポイントを持つ、福本紗良&ミニョンチームを各チームが追い上げます。なかでもミドルレンジパーフェクトキャッチの28ポイントを出した須貝ひとみ&Lienチームが合計80ポイントで上位陣にプレッシャーをかけます。

後に続くチームは目に見えないプレッシャーの影響もあるでしょうか、1ミス・2ミスとポイントが伸びず、優勝の二文字も手にするのは須貝ひとみ&LienチームVS福本紗良&ミニョンチームとなり、いよいよ「紗良&ミニョン」の最終出場となる。昨シーズン、年間レディースチャンピオンに輝き、優勝候補筆頭と言われながら、悔し涙を流した2006レディースチャンピオンシップから一年。その舞台が待っていた。呪縛から解き放たれたチームは伸び伸びと自分達のプレーを披露してのパーフェクトキャッチの34ポイントを獲得し、合計100ポイントで悲願の優勝を勝ち取りました。

惜しくも第2位には須貝ひとみ&Lienチーム、第3位には小川真由美&James Moriartyチームと初出場が大健闘し、幕を閉じました。



■スモールドッグチャンピオンシップ



出場する犬種が小型犬のみに限られたカテゴリーがスモールドッグチャンピオンシップ。

選手は男女を問わずに行われ、全国で選出された34チームが頂点を目指します。中・大型犬とは異なり、スローイング技術が重要視されるカテゴリーでもあります。2005シーズンから公式コートとなり、スモールドッグチャンピオンシップとしては、今回が3回目となります。

入場セレモニーの後にスローイング方向を決める"コイントス"が行われ、大会二日目のオープニングゲームとして予選第1ラウンドがスタートしました。小型犬にとっては好条件、選手にとっては…？

微風とも言える向かい風。スローイングが重要視され、接戦になるというのが大方の予想となりました。

1ラウンドを終えて、24ポイントを獲得したチームが4チーム。他、10ポイント台のチームが多数と予選2ラウンドも気を抜けない展開となる事が更に強まっています。



▲今は亡きショコラを偲んでのスロー

見事に決勝へと駒を進めた手腕の持ち主とパートナーは、42ポイント…林田知穂&FALCOチームは1R=22、2R=20と安定したポイントで予選5位。43ポイント…藤田篤&Sakuraチームは1R=12、2R=31と第2ラウンドで勝負をかけ予選4位。44ポイント…神田陽一&睦月チームは1R=17、2R=27とベテランチームの力を見せつけ予選3位。45ポイント…海野真由美&mahanaチームは1R=24、2R=21と初出場ながら、ミニチュア・プードルのポテンシャルを引き出し予選2位。トップ通過は48ポイント…小島宏允&リリィチームは、1R=16、2R=32と予選ラウンドでは最高ポイントたたき出し、そのまま逃げ切りを計りたい。ファイナリストのポイント差が僅か6ポイントと息の詰まる決勝ラウンドが待った無しにスタートを切ります。5チーム全てが初の決勝進出とあり、当然、初優勝チームが決定します。

僅差を制したのは予選4位からの逆転優勝で藤田篤&Sakuraチーム。第2位は決定戦により、海野真由美&mahanaチーム。第3位には林田知穂&FALCOチームでした。



小学校4年生から6年生までの高学年の部と小学校3年生以下の低学年の部に分かれて行われます。

入場セレモニーが行われ、一人ひとり名前を呼ばれると、全速力でコートに入ってくる姿がこどもらしく、緊張している様子も無く、元気な顔が印象的でした。

予選第1・第2ラウンド共に、レディース・スモール同様、向かい風が入る中での予選でしたが、選び抜かれたスーパーキッズ達には「風なんて関係ないよ」とばかりのナイススローを連発させ、それに答えて愛犬たちもナイスキャッチを披露します。

高学年の部では、第2ラウンドに49ポイントを出した、ランキング1位で出場の松下美空&テリュースチームが合計66ポイントのトップで決勝ラウンドへ進みました。予選2位には八幡瑛菜&マイクロチームが64ポイント。予選3位には野村昌矢&アイラチームが61ポイントと非常に緊迫した争いです。

低学年の部も高ポイントを獲得して東出実久&ブラッドチームが合計72ポイントでトップ通過。予選2位には、2ポイント差を追って、ランキング1位の福本巴亜人&ミニョンチームが70ポイント。予選3位には69ポイントで嶋田歩優&REXチームと3ポイント差での決勝ラウンドとなりました。

コートの周りは応援の人達の熱気で“異様な雰囲気”状態。お父さん、お母さんの方がこども達より緊張している感じも見られました。その中での決勝ラウンドは予選同様に、こどもたちのスローイング&愛犬のキャッチが続き、ゲームもヒートアップ。

高学年の部は、八幡瑛菜&マイクロチーム。低学年の部は、東出実久&ブラッドチームが激戦を制して見事に優勝いたしました。

同時開催として行われた記念大会は、一般参加者を含め次の日にグランドチャンピオンシップを控えたノミネート選手などが参加し、エントリーチーム数が172チーム。過去最大級のチーム数を集め競われました。

ゲームは予選1ラウンドを行い、上位24チーム+α(24位同ポイント含む)が次のトーナメントステージへ進め、トーナメント準決勝6チーム〜トーナメント決勝3チームへと駒を進めることになります。

各選手トーナメントステージに進むには30ポイント獲得が目安か?という、一つの目標を掲げて挑むチームや、ジャパンファイナルの雰囲気の中で1ラウンドを精一杯楽しもうというチームがぞっての予選1ラウンド目。

最終172チーム目には、関西のフリスビードッグの歴史を築き上げ、牽引してきた、団野悦郎&ケープ(ラブラドル・12歳。グランドチャンピオンシップ通算9回出場。9回目出場は10歳時。2007年度最終戦まで現役出場。)チームの引退試合もあり涙の場面も見られましたが、笑いあり真剣さありの印象に残る記念大会となりました。

結果、優勝は田口佳奈&LUKEチーム。第2位は、井上弘之&ゆふチーム。第3位には、三本欽麗&Rayster・Hoseチームでした。



■2007年度表彰式典

1ゲーム100ポイントオーバーを果たしたチームをはじめ、ジャパンファイナル連続出場、各部門のランキング上位チームや2007年度に開催された公式シリーズ選手権・公式クイーンズ選手権を制覇したチーム、そして2007年度公式デビューをし活躍した選手に贈られる新人賞や、活躍が著しかった選手に贈られるMIP賞などの特別賞の表彰が行われました。



■フリーフライトチャンピオンシップ

2007年度のランキングトップ17チームをノミネートしてチャンピオン決定戦が行われました。

フリスビードッグの「華」、華麗な演技を見せてくれるフリーフライトは、第1ステージのテクニカルステージ（規定演技）と第2ステージにフリーステージ（自由演技）の合計点で競われます。

北は北海道から南は九州までのフリーフライトトップランカーの演技は言うまでもなく目を奪われる場面の連続。早く、確実に、そして華麗に。素晴らしい演技を目の前にした観戦者からは、拍手と声援が贈られました。

結果、テクニカルステージでは確実に規定演技をこなし、フリーステージではふんだんに技とコンビネーションの素晴らしさを見せつけた、高坂健一&Bondチームがフリーフライトチャンピオンシップ優勝の座を勝ち取りました。

第2位には、女性らしい華麗な中にも大胆さを併せ持つ演技を見せた水野友美子&ヴァゼルチーム。第3位には、迫力ある演技を見せた山下靖&Dreamチームとなりました。



■グランドチャンピオンシップ

公式戦参加526チームがポイント争って年間戦ってきた中でトップランカー、ジャパンファイナルのグランドチャンピオンシップノミネート68チームにより日本一を決定します。

近年のレベルの高騰を加味し、暫定的に2007年度グランドチャンピオンシップ決勝ラウンドで争うチーム数を予選上位10チーム+α(10位同ポイントを含む為)としました。

各チーム、一つのミスをも許されない予選ラウンド。第1ラウンドを終了し、30ポイント以上を持って折り返したチームにも第2ラウンドに暗雲が待ち構えているとも限らない緊迫した予選ラウンド。第2ラウンド終盤の年間ランキングトップ10に差し掛かるところで予選ボーダーラインは60ポイントを突破しました。

しかし、この後に年間シリーズチャンピオン、前年度グランドチャンピオンを含むランキング上位チームに起きたまさかの失速。ここで姿を消すとは誰しもが思わなかったチームが予選にて敗退という悲劇が起こりました。予選終了、決勝進出ボーダーポイントは60ポイントとなり、決勝へ駒を進めたチームは14チームとなりました。

「2007年度一番強いチームは誰か!?この後決勝!」というMCが流れる中、ファイナリストの緊張感はもちろん、コートを取り囲む選手や応援者の興奮も、これよりピークを迎えることになります。

そして決勝。トップは76ポイントと14位との差は16ポイントを持つが、最後まで誰が勝つかわからないのがグランドチャンピオンシップ。最初にトータル100ポイントをオーバーしてきたのが、102ポイント福尾光一&BRUCEチーム。しかし、この後にグランドチャンピオンに王手をかけたのが、決勝38ポイントをたたき出し、トータル106ポイントを出した西山祐真&サリーチーム。昨年度グランドチャンピオンシップにおいて、予選トップ通過したが惜しくも2位の座となった父、西山哲也&ハンターチームの敵を討てるか?期待が膨らむ…。

そして、いよいよ予選トップチームの出番。2007年度新人賞を受賞した高橋毅一&vogueチームの登場!

持ちポイントは76ポイント、優勝するには最低条件31ポイント以上という微妙なプレッシャーを感じるポイント。しかしながら、ラスト投までもつれ込んだ優勝争いでしたが、見事32ポイントを獲得。トータル108ポイントで優勝を飾り、公式戦参戦1年目にしてファイナル優勝という快挙を成し遂げました。

なお、第2位は、西山祐真&サリーチーム。第3位は福尾光一&BRUCEチームとなりました。





グランドチャンピオンシップ

高橋毅一 & vogue

2006年2月に我が家の一員となったvogue。まるで台風が我が家に上陸したようでした。

当時は出張がちで不在だった自分に毎日のようにかってくる妻からの愚痴電話。走り出したら止まらない、ズボンを脱がし娘を泣かせ、隣家の犬には突撃！隣の朝ごはん。かなり振り回されていたらしいです。（笑）

そんなvogueも9ヶ月を迎える頃には、幾分落ち着き大会に参加できるかな？くらいまでに成長しました。

2006年ジャパンファイナル ユースの部にノミネートされ、極度の緊張からなのか決勝で足をつり（笑）不完全燃焼で終わってしまったファイナル。「2007年シーズンは、グランドチャンピオンシップに出場するぞ！」と心に誓い、会場を後にしました。

そして向かえた2007年シーズン。

本格参戦した公式戦、序盤は勢いだけで進みまくり4勝をあげ夏前に失速（笑）。勢いだけできたツケが回ってきたかのように、チグハグなプレーが続きました。

7月の朝霧では、1ラウンド37Pを出すも、2ラウンド0P。落ち込んでいる自分に福本さんが、クラブ茨城の夏合宿に参加してみないかと声を掛けてくれました。

猛暑の中行われた夏合宿は、メンタル面、技術面を鍛えられたと思っています。今思えば、あの合宿が大きな転機となったのかもしれない。

後半戦に入っても、vogueと噛みあわないプレーが続いていました。11月の新潟阿賀野川で加藤LYNXと戦った決勝戦。2位通過のLYNXは40P！自分も40Pを出さなければ勝ちはない状況…。

8、8、8、6 あとはデットしかない、よ～しやってやる～！と気合いを入れた最後の一投、右大場外…（笑）

しかし、初の100P超えをし自分の中で何かが吹っ切れました。最終戦のつくばでは二日間とも決勝に残り、確実に調子があがっているのを確信する二日間でした。

両日とも決勝ラウンド第1投で大場外でしたけど…（笑）



そして迎えた夢の大舞台JAPAN FINAL2007。

相棒vogueは、いつもと変わらずなのに、自分は出番が近づくにつれ緊張で青ざめてました（笑）

待ったなしで始まった1R。コートに入ってからには不思議と緊張が消えいつものプレーが出来、6×6の36Pでトップタイ。2Rも同様、コートに入った瞬間緊張が集中に変わり、初の40P！トータル76Pでトップ通過で決勝へ。決勝に行く事を目標にしていたので、とても嬉しかったです。

14チームで行われた決勝では、関東勢の五十嵐チョッパー、川野辺波平、井上ゆふ、嶋田メル、そして、vogueの同胎の杉本ラーチ、更に関西、九州の強豪が顔を揃えた決勝戦。

決勝では、しっかり腕を振り投げ込む事だけを考えました。「あとはvogueがなんとかしてくれるだろう（笑）」と、思い切り挑めました。

「2007年グランドチャンピオンは高橋毅一&vogue!!!」とコールされた時の感動は今でも忘れられません。

最後になりましたが、アドバイスや励まし、応援をしてくださった方々、クラブ茨城の方々、スタッフの皆様ありがとうございました。

支えてくれた妻子、フリスビーの楽しさを教えてくれたクリス、難しさを教えてくれたレイチェル、応援隊のウェンディ、シャノン。そして、夢を大きく咲かせてくれたvogue！本当にありがとう。



グランドチャンピオンシップ

西山祐真 & サリー

今年で三回目のグラチャンノミネート。それが播磨、完全に地元。

これは勝つしかない！と練習量を増やしたものの、どうもシーズン終盤からスローの調子が良くない…。

FINALが始まってからも調子は戻らず、グラチャン前日の記念大会でようやく少し戻り、グラチャン当日のBコート開放の投げ練を重ねて最終調整…。

サリーの直前がハンターだった事で程良く緊張感も抜け、コートに入ると調子も戻り、予選2位通過。

とりあえずの最低目標達成。トップvogueとは6点差…。段々プレッシャーが強くなって、またBコートで投げ練。全くコントロールが定まらず、ずっと投げ続けてようやく少しマシになって、そろそろ出番。

少し気分が悪くなる程のプレッシャーの中、決勝。

グラチャンの決勝…。

不安定なスローながら、サリーの完璧なキャッチのお陰

でパーフェクト、26。

「少しはプレッシャー与えたかな？」という期待もvogueの2投見た時点での安定度で砕かれ、やっぱり2位。

親子でグラチャン2位…

来年こそはハンターかサリーで悲願のグラチャン制覇を！





グランドチャンピオンシップ

福尾光一 & BRUCE

2007年ジャパンファイナルを終えて、今年1年色んな苦勞がありました。大会になれば走ってくれないし、走れば空ジャンプばかりで本当に苦勞をしました。

でも、BRUCEを信じてやってきた結果、こんな大舞台上で決勝にまで入れて、しかも3位になり本当に嬉しいです。全てBRUCEをのおかげです。

本当にありがとう。

まだまだBRUCEをとほ、色んな苦勞があると思いますが、今以上BRUCEを信じてそしてもっともっと信頼関係を深め、来年も再来年も元気に限りずっとジャパンファイナルに出れるように、BRUCEをとともに頑張りますので、来年も皆様、宜しくお願いします。

そして応援してくれた皆様、本当に1年ありがとうございました。またスタッフの方々、1年間お疲れ様でした。



フリーフライトチャンピオンシップ

高坂健一 & Bond

11月25日、広い会場、天気にも恵まれて最高のコンディション。

ジャパンファイナルと言う特別な雰囲気の中で、数年ぶりに感じる空気。MistやBondと一緒に競技に参加する事が出来るんだ。と言う想いが嬉しかった。

テクニカルルーティンは、淡々と規定をこなして1位と2位の位置に居たのだが、フリールーティンは、Mistとのプレーでミスを連発してしまったので、Bondは確実にと慎重にプレーしたMistとのミスをした事ばかり記憶に残ってBondとのプレーを殆ど覚えていない…。

Mistは大幅に順位を下げてしまったが、愛娘がフォローしてくれたおかげでBondとのチームで優勝する事が出来た。

自宅で留守番している、妻やMousse・WAXに良い報告をした最高の一日になった。

そして、ジャパンファイナル大会運営スタッフ皆様のおかげで楽しい一日を過ごしました。

ありがとうございました。



フリーフライトチャンピオンシップ

水野友美子 & ヴァゼル



ヴァゼルは6才半。生後2ヶ月頃から、ディスクドッグとして育て2～3才の頃彼は絶好調でした。その秋、少し早いかと思いましたがアメリカの大会に挑みました。それから3年近く、一番良い時期、彼と私は大会に出ていなかった。

2007年春、数年ぶりに「フリースタイル競技」に出場参加、久しぶりのフィールド、そしてすぐにKORIA大会に参加。大会をこなすごとに私とヴァゼルは昔の呼吸と感覚が戻ってきました。

今回のファイナルは私達にとっては特別な意味がありました。

タイムカウント、最後の技を決められず「失敗した!!」と言う気持ちと「終わったもう終わった! 私達はやれるだけの事をした!」と言う重圧から開放された思いです。

ファイナル前に親友の突然の死、彼女の「フィールドに立つ私達を見ていたい」と言ってくれた言葉を胸に、私は「表彰台に立つ」と心に誓いました。

そして、実力あるヴァゼルなのに今迄表彰台に立たせることが出来ずにいたヴァゼルをこんな大きな大会で立たせることが出来たことがとても嬉しかった。

悲しみのパワーは私に大きな力を与えてくれました。
ブログ仲間も会場に応援に駆けつけてくれました。
とても楽しくより思い出深い涙と笑い・感謝の大会になりました。

私のエキサイトブログ「Fire Dogs」に仲間が撮った素晴らしい写真を載せることができました。是非観て下さい。

沢山の宝と思い出をありがとう！！

これから私達は少しの間、その宝を少しずつ増やし続けていこうと思っています。

Thank you about all



フリーフライトチャンピオンシップ

山下靖 & Dream

ジャパンファイナル2007にノミネートされ、参戦を決意したのが大会の一週間前。

我が家にとっては初めての本州遠征、飛行機での移動、気候の違い…不安だらけでしたが、Dreamが掴んでくれた折角のチャンス、何事も経験と思い参戦を決意しました。

出場日の前日空路兵庫入り。会場の下見も済ませて大会当日を迎えました。

肝心のプレーはというと、初めてのジャパンファイナル出場ということもあり、あまりの緊張からか自分自身のプ



レーについてはよく覚えていません。

Dreamは人間の心配をよそに体調を崩すことも無く、いつも通り元気一杯 <走って、跳んで、ガジガジ> してくれました。結果3位入賞、表彰台に上がることができました。

ありがとうDream！

ファイナル独特の緊張感に触れ、全国各地から参戦されたチームのプレーを見ることにより我がチームの課題もハッキリと認識できた有意義な遠征となりました。

最後に、ジャパンファイナル2007参戦にあたりお世話になった皆様ありがとうございました。



レディースチャンピオンシップ

福本紗良 & ミニョン

大好きなラッキーとフリスビーを始めたのは7歳の時でした。最初はこども大会に出場していました。

その後公式レディース部門にエントリーをして、レディースでのファイナルは今回で5回目となりました。

1回目のファイナル（ヤフーBB）はまさか出場できると思っていませんでした。決勝Rには残れませんでしたが大好きなラッキーとの良い思い出です。

2回目のファイナル（伊賀上野）はラッキーとフィーユで参加出来ました。

結果はフィーユで2位。次第に優勝したいという気持ちが強くなりました。

3回目のファイナル（名古屋）は緊張感がフィーユにも伝わってしまったのか残念ながら4位という結果で終わってしまいました。

フィーユでの優勝は難しいかなと思っていた時に我が家のエースのミニョンとペアを組んでみたらと言われ、翌年からミニョンと出場する事となりました。

手元が悪く、とても悩んだ時もありましたが1年間頑張り、年間チャンピオンになる事ができました。

4回目のファイナル（水戸）は「今年こそは」と思って臨んだファイナルでした。

受付で渡された1位のゼッケン、投げる方向を決めるコイントスなど年間1位としてのプレッシャーが私に重くのしかかりました。お腹がよじれて心臓が爆発しそうに成る程緊張しました。投げはひどいものでした。2Rに巻き返してなんとか決勝Rに残れたものの優勝する事はできませんでした。

言葉では言い表せないほど悔しかったです。

今年の1年間は大スランプでなかなか結果がでない大会が続きました。「このままだと今年はダメかもしれない…」そう思って沢山練習しました。そしてどうにかファイナルに調子を合わせていく事ができました。

5回目のファイナルは去年ほどの緊張感はなく落ち着いてプレーができたと思います。ミニョンも良く応えてくれました。予選R1位で通過でき決勝Rでも満足するスローができました。5回目にしてようやく優勝する事ができました。あまりの嬉しさに涙が沢山でできました。

優勝できて本当に良かったです。

私がフリスビーを始めてからずっと一緒に頑張ってくれたラッキー、いつも真面目に頑張ってくれたフィーユ、こうして優勝をプレゼントしてくれたミニョン、ありがとう。

また、一緒に泣いて喜んでくれた皆さん、いろいろとお世話になった皆さん、ありがとうございました。

私は、来年中学3年生で受験があり、大会にはなかなか出られないと思います。

でも、再来年には大会に参加して皆さんに会える事をとても楽しみにしています。





レディースチャンピオンシップ

須貝ひとみ & Lien



今年8月で一歳になったLien。公式レディースへの参戦は9月からでしたが、彼女の持ち前のキャッチセンスの良さに救われ、先住犬のタフィーと共に、夢のFINAL 2頭出しを実現することが出来ました。

まだチームとしては日が浅い私達は、コレというプレースタイルが確立しないままのファイナル出場でしたが、Lienの頑張りのお陰で決勝へと駒を進める事が出来ました。

大舞台を目の前に、緊張で硬くなっていた私にたくさんの方々が声をかけてくださいました。

ある人は「いつもの散歩や思え〜！」

またある人は「この大舞台でプレー出来る事を楽しんで！」

そして決勝進出者呼び出しの際にいただいた言葉「平常心」…。

みなさんの言葉一つ一つが心に響きました。

私の心は決まりました。「よし！決勝は、思いっきり楽しんでいこう！」

そして迎えたファイナルラウンド。Lienと目と目を合わせ…GO！

みなさんの声援を背に受けながら、私達の2007シーズンのファイナルラウンドは見事パーフェクトキャッチ！最高の一瞬間でした。Lien、ありがとう！

みなさんの励ましがあったからこそ、このような結果が出せたのだと思います。

本当にありがとうございました！

シーズンを終えてホッ。としたのも束の間、2008シーズンが始まろうとしています。

2008シーズンも、タフィー、Lienと共に無理せず、明るく楽しく、Frisbee Dog Lifeを送っていきたいと思っています。



レディースチャンピオンシップ

小川真由美 & James Moriarty

今シーズンが始まった12月に1歳になったジェームズ・モリアーティ。

翌月の1月に雨の大渕大会で公式レディースデビューしました。

名前はジェームズですが、実は女の子だったりします。

この長い名前にインパクトがあったようで、沢山の方に声をかけて頂きました。遠征先各地にお友達もできて、とても充実した一年だったと思います。

この一年のゲーム内容といえば、ワタシが場外スロー&刺しまり、モリアーティが得意のスカッ跳び、挙句に受け渡しは知恵比べ。（ワタシの顔が怖いらしい。）

毎度毎度バタバタしたゲームを繰り広げ、ボーダーラインをさまよいながらの一年となり、かなりスリリングな体験をさせて頂きました。



結果なんとか33位にランクインしてノミネート確定。

先住犬のシェルティ『ホームズ』もユースでノミネートされ、二頭そろってファイナルにいけるだけで十分嬉しくて満足。何の気負いもなくファイナルを楽しむ事ができました。

ファイナル、1R2Rともに向かい風の為スローが高く上がりすぎ。今までならスカッ跳んでもおかしくないスローでしたが良く見てキャッチ！モリアーティ、この日は気分的にも絶好調だったようです。

決勝ではせっかくの大舞台に立てたのだからと思い切って投げ込みました。案の定スローは乱れましたが、逆にロングエリアでの難しいキャッチなどモリアーティの良いところを披露する事ができた上、思い切りやれて気持ちよく終わり、とにかく楽しかったの一言につきるファイナルでした。

大会を運営して下さった各支部の皆様、本部の皆様、アドバイスをくれた皆様、応援して下さった皆様、一年間本当にありがとうございました。

そしてファイナルに連れてきてくれた仲間達に感謝！



スモールドッグチャンピオンシップ

藤田 篤 & Sakura

地元播磨でのジャパンファイナルという事もあってSakuraを出場させてやりたい気持ちでがんばってきた今シーズン。Sakuraの母：福原ミミちゃんの夢だった「ファイナル優勝！」をする事ができて本当にうれしいばかりです。

昨年は、Sakuraの足のケガで約1年大会参加も練習も全くせず治す事だけに専念していましたが、「もしこのまま治らなければ、あきらめよう…」と一時はフリスビーをやめようと思った時期もありました。Sakuraさえ元気でいてくれたらそれでいいと…。

でも遊ぶ事、特にフリスビーが大好きなSakuraにとっておとなしく療養する事は、思っている以上に簡単にはいき



ませんでした。少し動けるようになったと思えばこっちがヒヤヒヤする程走り回って隠してあるディスクを見つけ出してはシッポを振りこちらを見つめ、相手にされなければ自分で引っ張り出そうとする。でも完治するまでは無理に運動させず、少しずつの自由運動のみで過ごしていました。

足が完治し数ヶ月後から少しずつ体作りと練習を始め2007年初頭近場の大会に参加。久々の大会もあってか遊びたいけど周りが気になってあまり走れない状態が続き、Sakuraの調子が戻った頃には自分が体調を崩し大会中にご迷惑、ご心配をおかけした事もありました。この場をお借りして、お詫びいたします。またその後も心配して下さった方々には本当にありがたくお礼申し上げます。そんな状態だっただけに、ファイナル出場も難しいと思っていたので、まさか優勝までできるとは思いませんでした。

1Rはスローがバツとせず2キャッチしかさせてやる事ができませんでした。2Rは自分がSakuraのサポート役としていつも以上のスローをしなくてはと思い投げる事に集中し、後はSakuraに任せようと思いコートに入りました。1本目「投げれた！」と思った瞬間Sakuraがフアンブル、そしてキャッチ！自信満々の顔で帰ってくるSakuraに残り3本悔いのないようちゃんと投げてやろうと集中し、それに應えてすべてキャッチしてくれ決勝へ行けました。決勝は後悔のないよう自分自身との戦いでした。Sakuraは本当によく走り、彼女自身のがんばりとみんなが応援し支えてくれた結果だと思っています。

最後にSakuraが小さい頃から見守り続けてくれている福原さん、一緒に楽しく練習してきた地元みんな、声を掛け合い共に闘った小型犬のみんな、どんな時もサポートしてくれたりえちゃん、そして応援して下さったみなさま本当にありがとうございました。

来年度もよろしくお願いします。

質があるかも！？”と淡い期待を抱いたのでした。

それからまず呼び戻しから始め、手元の練習、キャッチの練習と段階を踏んで少しずつ練習。そして、1歳を迎える頃には、鳥よりも蝶々よりもトンボよりも、何よりもフリスビーが大好きなブードルに成長してくれたのでした。

2007年1月。友達の勧めもあり、大会デビュー。

参戦した大会ではmahanaの持ち味であるスピード、キャッチセンスの良さに幾度となく助けられ、上位に入賞することが出来ました。

シーズン序盤、問題は投げ手でした。コート内におさまらないスロー。高すぎ低すぎ右に左に垂れ、安定感ゼロ。mahanaに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

シーズン中盤、投げ練習の成果が出始めエリアが延び場外率が低くなった反面、フリスビーのキレが良くなりすぎmahanaが弾くようになってしまいました。

シーズン終盤、エリアはそのままにmahanaに優しいスローを心がけ、最後に参加した久居大会の決勝で6x5の30pを上げることができ、最高の形でシーズンを終えることが出来ました。

そして、2007年度第2ノミネートから出場を果たしたジャパンファイナル。目標はmahanaらしいゲームをすること。刺し気味のスローもキャッチ、急降下してくるフリスビーもキャッチ。ある意味、目標であったmahanaらしさを存分に発揮できたゲームになりました。

結果、決勝に進出。さらにはEXラウンドまで戦い2位という好成績を収めることができ、大変嬉しい思い出に残る大会となりました。

会場では、ブードルを見るのを楽しみに来たと声を掛けてくださる方もいらして、mahanaとここまで来ることが出来て本当に良かったと、改めてmahanaへの感謝の思いを強くしたのでした。おっと忘れてはいけない、サポートに徹してくれた夫にも感謝！

最後に、JFAスタッフの皆様、応援して下さった皆様、アドバイスしてくれた皆様、一年間本当にありがとうございました。

来シーズンはまたこのジャパンファイナルの舞台に立てるよう、mahanaと力を合わせ一年間楽しんでプレーしていきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



スモールドッグチャンピオンシップ

海野真由美 & mahana

いろんなドッグスポーツを楽しみたいと思って迎えたmahana。明るく健康で元気に育って欲しいという願いを込めて、太陽という意味を持つ「mahana」と名付けました。

その願い通りに育ってくれたのは良かったのですが、少々元気が良すぎ！？幼い頃はとにかく動くものに対しおかしなくらい異常に反応。鳥や蝶々やトンボが目に入ると大興奮して追い掛け回し、私たちを大変困らせたものでした。

そんな問題行動の中にも”もしかしたらフリスビーの素



スモールドッグチャンピオンシップ

林田知穂 & FALCO

ふあるこが…ファイナルで3位!? きっと誰もが驚いたに違いない…私が一番驚いた!! (笑)

2～3歳の若い頃、大会のコートでは怖くて走れない犬だったし、今でも雷や不意な物音、音花火が鳴ると競技中でもディスクを放り出しブルブル震える弱虫ふあるこ。少しでも私が楽しく出来ないとテンションダウンして止まるふあるこ。

フリスビードッグに不向きなメンタルの持ち主ナンバーワンである。

公式小型発足の年2005年…。ふあるこ5歳と遅蒔きながら初めてのフルシーズン参加でファイナル出場を果たし、翌年…年齢的にもラストチャンスと参戦していた矢先、肩を怪我して戦線離脱…この時は競技犬としての復活はないものと思っていたが驚異的な快復を遂げ復帰することが出来た。

そして今年2007年…ふあるこ7歳。シーズン終了時には8歳になる。怪我明けなのでそれまでの半分以上に減らしての参加だった。

ふあるこの状態は上向きで怪我前よりもどんどん調子が上がっていたが、シーズン後半から数字を意識し出した私がボロボロ乱れてしまい、もしかしたら…と考えていた自カノミネートは力及ばずシーズン終了。

諦めてかけていたところ第2ノミネート枠で出場出来ることになった。

ふあるこの年齢的にもこんなチャンスはもう最後だろう…。せっかくファイナルに出場出来るのだから誰よりも楽しく元気に遊びたい! うちらしいゲームをしたい! と言う気持ちで臨んだ。

晴れ犬ふあるこのお陰で素晴らしい天気恵まれ気分は最高! ふあるこも朝から絶好調で状態に不安は全くなし…。

コートに入ったらワクワクが止まらい…レディーゴー! でふあるこは爆走! 1投1投思いを込めて投げいつもの大声でふあること一緒に目一杯楽しんだ。高ポイントではないが自己ベスト、ふあるこらしさ満載のゲームが出来た。

そして…まさかの決勝進出! 決勝のスローはあまり良くなかったけれど、ふあるこがフォローしてくれパーフェクト! なんと2位タイのEXラウンドまで…。



私の集中力が既に底を尽きておりここまでだったがふあるこの頑張りのお陰で、5位からジャンプアップの3位になった…。あのふあるこがである。

今までのゲームの中でも一番楽しく出来たしふあること私の全てをこのファイナルで出せたことはとても嬉しく幸せだった。

こんな日があるなんて…、怪我でリハビリしている時は想像もつかなかった。

痛みも自分だけ走れないのも必死に我慢してふあるこが沢山頑張ったから、ご褒美は神様が

ちゃんと与えてくれたんだよね。

ふあるこ…素敵な思い出をありがとう。

私はいつも一人と2頭で大会に参加していますが、さりげなく気にかけてくださりお世話になっている方が沢山います。

私達が安心して大会に参加出来るのも皆様のお陰です。この場をお借りして…いつも本当に有難うございます。皆様の支えと沢山の応援のお陰で私たちは頑張れました。今後ともボチボチ出没しますのでよろしく願いいたします。



ユースオープン(個人)の部

須貝信也 & Lien



フリスビーに出会ったのは、先住犬のタフィーが一歳を過ぎた頃、静岡浜北の大会でした。

それから4年、待望の2頭目を迎えることが出来ました。それがLienです。

タフィーとの5年間で学んだ事、タフィーにしてやれなかった事を、この子にはやってあげたい。そんな思いでこれまで私達はやってきたつもりです。

Lienはそんな私達の思いに、想像を超えた形で答えてくれました。ユース年間ポイント一位、そしてFINAL優勝と、考えもしなかった結果を残してくれたのです。

しかしFINALの2Rでの私のスローはひどかった! 長年、苦楽を共にしてきた先輩の安心院さんと一緒に決勝に行きたいという思いに、私の緊張はピークに達し、天ぷら、引っかけ、つきさしのオンパレード! ラウンド中に修正がきかなかった…。にもかかわらず29P! …? Lienのお陰です。

持ち前の身体能力の高さに加え、Lien自らがタフィーから学んだフリスビーへの意欲がとらせてくれたポイントだったと思います。

学んだフリスビーへの意欲がとらせてくれたポイントだっ

たと思います。

優勝が決まった瞬間、「やった！」という実感は無く、「よくここまで育てくれた」という気持ちでいっぱいでした。

本能の塊だったKienをもてあます私達に具体的なアドバイスをしていただいた大恩ある諸先輩方、温かい目で見守ってくれた地元クラブの仲間達やプレーヤーのみなさん、そしてフリスビー大会の楽しさ、人生の楽しさを改めて教えていただいた空野さんに心より感謝すると共に、関わっていただいた全ての方に育ててもらったチームなんだと再認識しました。

来シーズンはいよいよオープンに参戦です。周囲からの期待やプレッシャーもあると思いますが、集中してプレー出来るような準備と環境を整えて、1投1Rを大切にしていきたいと思います。

とは言ってもLienはまだまだ子供です。心と体のケアをしっかりやりながら楽しんでいくつもりです。

もちろんタフィーとも、まだまだ頑張ります。とにかく、焦らずゆっくり、我が家のペース（妻のペースとも言う）で楽しんでフリスビードッグをやっていきます。

みなさん、これからもご指導よろしくお願い致します。



ユースオープン(団体)の部

チーム大阪Ⅱ

上田彰 & SANTA

SANTAにはチビの時から集中力があり動きも機敏でしたので、かなり期待していました。

ディスクを教え初めの頃はSANTAにプレッシャーをかけ過ぎていたように思います。そのせいか、なかなか手元が上手くできず苦労しました。

そんな時に知人からのアドバイスで服従訓練を教えてもらい、この初秋からは手元、キャッチ率など飛躍的に上手くなり、SANTAと良い感じで息が合いました。

そして迎えたジャパンファイナル。団体戦優勝、個人戦5位と大満足な結果でした。

最後に、応援してくれたみなさん、アドバイスをくれた方々、SANTAを譲っていただいた北海道の千葉さん、そして一生懸命に走ってくれたSANTAに感謝します。ありがとうございました。



井手元ルミ & みゆら

団体戦の優勝の参戦記...といっても、うちのチームは（というより私が...。笑）皆さんの足を引っ張ってる側なので（汗）とにかく『ラッキー♪（▽*）v イェーイ』って感じです。（笑）

でも常にへっぴりコスロー炸裂の母ちゃんのフォローをしてくれる、親孝行なみゆらのおかげでユースの権利が獲れたので、こんな嬉しい体験をする事ができました♪



なので、やっぱりみゆらに1番アリガトウって感謝の気持ちでいっぱいです。（^^*）これからもみゆらや、妹のもでなど一緒にフリスビーを楽しんでいけたらいいなあって思ってます。

最後に。。。

一緒にフリスビーを楽しんでる友達や、大会で お世話になってるスタッフの皆様。

これからもヨロシクお願いします♪

河野和則 & ラブ

私とラブは、今期の途中にチャレンジからユースオープンに転向したばかりのコンビです。

私とラブにとってユースオープンのレベルは高く、ジャパンファイナルにノミネートされただけで大満足！ジャパンファイナルに参加できる事が、ゴールの様なものでした。（当日の朝、ノミネート選手メダル授与式を終えた時点で「もう十分やあ、帰ってええわあ〜」と思ったぐらいです）

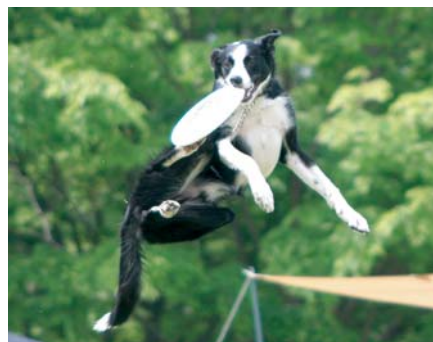
そんな私とラブが、大阪Ⅱチームの大活躍のおかげで団体優勝することが出来て最高の大会となりました。

チームの皆さんありがとうございました。そして、応援して下さいました皆さんありがとうございました。



高桑真紀 & ☆B☆

秋から参戦した☆B☆とのユースオープンで初めてのジャパンファイナル。参加できただけでものすごくうれしかったのにまさかの団体戦優勝！！



素敵な感動をありがとうございました。

これからもそら & ☆B☆といっしょに、とびっきりの楽しい時間を過ごせるようにがんばりまっす！



こども(高学年)の部

八幡瑛茉 & マイクロ

マイクロとの一年は色々な事が有りました。

特に一番印象に残っている事は、播磨大会で全投キャッチを決めたのに最後スタートラインの手前でマイクロが止まってしまった事です。必死に呼んでも、呼んでも全く動いてくれずカウントが入ってしまった事です。

いつもお父さんに言われていた「最後まで…」が出来ず、終わってからお父さんに厳しく怒られ、悲しくてフリスビーを始めて以来始めて泣きました。

その時お父さんに教えられた事は、ポイントが確定するまで終わりじゃない…と言うことです。お父さんが言った言葉にムッとして嫌になった事も何度もあったけれど、お父さんのお陰でファイナルに出場する事が出来ました。

1ラウンドは自分のミスもあってポイントが伸びず一瞬「もうだめかな？」ともおもったけれど2ラウンドは気持ちを切り替えて出たら思っていたよりポイントが伸びてとても嬉しかったです。決勝では40ポイントもとれて優勝する事が出来ました。

私がファイナルで優勝する事が出来たのは一生懸命私が投げたディスクをキャッチしようと走ってくれたマイクロと、両親、私のまわりでフリスビーをやっている人達皆さんのお陰です。これからも、もっともっと練習をして楽しいフリスビーを続けていきたいです。

ありがとうございました。



こども(低学年)の部

東出実久 & ブラッド

きょ年のジャパンファイナルは、11ばんで、行けなくてごんねんでした。

今年は出られてうれしかったです。

1・2Rでトップだったから、とってもきんちょうしました。

いつもの大会の1ばん大きいポイントよりも、高くとれてびっくりしました。

けっしょうは、2位の人と同じ合計点になってしまって、エクストラをやりました。

思いっきり投げたら、10ポイントエリアまでとんで、ブラッドもいっしょうけんめい走ってとってくれて、ゆうしょうできました。

たくさんの方がおうえんしてくれて、うれしかったです。

わたしのゆめのウィニングランができて、大きなトロフィーももらえて、まるでゆめのようにです。

ブラッドありがとう！！

おうえんしてくれたみなさん、ディスクをおしえてくれたういんぴーずのみなさん、

ありがとうございました☆





シニアドッグの部

宮迫裕二 & IVY

今から去ること7年前、2000年10月21日(土) 三木ホースランドパークでのチャレンジ大会参加が、IVYとのフリスビー行脚の始まりでした。

その年の2月に神戸フルーツフラワーパークで行われた大会を二人の娘達と見学に行った時のことでした。

初めて目のあたりにしたフリスビードッグ、空中でフリスビーをキャッチする犬の動きは、今まで感じたことのない興奮を与えてくれました。

家に帰ってからも、「すごかったね！楽しそうだったね！カッコよかった！やってみたい！」の家族での会話が、まるで昨日のことのように思い出されます。

4か月後、我が家にIVYが、北の大地からやって来ました。

フリスビーを始めるまでは、春～秋はテニス・ヨット・サッカー、冬はスキーと一年を通して、陸、海、山を駆け回り回っていた人間を虜にし、投げることも、見よう見まねで始めた独学のフリスビーを、形有るものにIVYはしてくれました。

それから7年が過ぎた今年の6月、今庄大会でシニア大会初参加をしました。

「IVYも、シニアの年齢でしょ！シニア大会も楽しいよ!!」って声をかけられたのがきっかけでした。終わってみると、家内からも友人からも「父さんも楽しそうだったし、それ以上にIVYの表情も楽しそうだったよ!」「IVYとのフリスビー楽しんでたね、良いものを見せてもらったよ!」等の声をかけられ、そういえば、1R、1R、IVYとのゲームだけに集中していた自分に気がつきました。

そして、シニア大会ファイナルにおいてもゲーム中に、全力疾走で走りキャッチするIVYが頼もしく、愛おしく、また、



ゲームに集中する自分を感じていました。

結果は1 R 36 p、2 R 20 p、決勝27 p、計83 pで優勝。

「やったね！IVY!!! ありがとう!!!」でした。

まもなく8歳になるIVYに、今までのように求めることはかなわなくなることは明白で、今年のファイナルがIVYとのフリスビー集大成の大きな1ページを飾ることが出来たかなと思うと同時に、怪我等の無いうに末永く楽しんで行こうと思う、今日この頃です。

後になりましたが、大会毎にサポートしていただいた間家、片岡家、島本家、江村家、そして応援してくださった皆様に感謝申し上げます。

ありがとうございました。

PS:「フリスビードッグ」っていったい何なんでしょうね??

自分は、今もって明確な答えを見つけることが出来ません。まだ、現役で頑張ってくれるIVYとTrad・Ralphの2代にわたる兄弟がいる限り…無理でしょうね?!



ペアの部

深谷里美・浩之 & TIGA

我が家のワン達は運動量確保の為に、ボール投げやディスクをやっていましたが、たまたまTIGAのキャッチ率がいいので、父方のエルフ@坂上家より、出てみたら?と誘いを受け、興味を持ち始めた我が家。

もともと、我が家のライフスタイルはオートバイでのロードレース参戦! 鈴鹿、筑波、SUGO等のサーキットへ遠征し、走りまわっていました。05年SUGOのレースとディスクの大会が同じ週末に実施された事があり、レースの練習走行の合間にTIGAとSEVENでビギナークラスに初参加。

TIGAは優勝し、表彰式にはレースの練習を中断しレース用バイクを会場横に乗り付け、革つなぎのまま表彰式へ。(一人だけ変な格好の人でした。→現在も?)

好結果に味を占め、06年度は、競技ディスクが貰えるクラスが良いと、レースの合間にユース参戦。

昨秋の三重久居の大会で「ウィペットで、いい犬なのに、投げ手がヘボイ」って事で、関西大御所の山本さん、正木さんに後ろから羽交い絞めにされ「こう投げるんだ」と、ご指導いただいたのが弟子入り?のきっかけでした。

ファイナル大会があることを知り、ユース最終戦に無理やり参加させていただき、ユース初優勝&ユースのファイナル権ゲット! 投げ手が下手なので、ファイナルではディ

スクは吸い込まれるように、大看板の最上段へ…。(看板に当たったので、フード一年分位、貰えないかな、なんて話しておりました。)

そして今年、活動のメインはあくまでレース、その合間にディスクの大会に参戦。ユースのチーム戦の雰囲気が入り、ユースに参戦し始めましたが、幸先良く、4連勝! ここで欲が沸き、オープンでも行けるのでは?とクラス変更。

3月頃、ディスクの大会後、銭湯の着替え場で「ディスクを取るか、レースを取るか」の話題になった時は、悩んだ末「レースかな～」と言っておりましたが、4月末のレースで転倒して、三半規管を傷めてしまいレースを休む事になったのと、ディスクでの成績が良く、ファイナルへの道が見えてきた事(7月頃)が重なり、ディスクの大会に本格的に参加する事となりました。

目標は「ファイナル出場、どうせ出るなら3日間楽しもうってことで、ユース、シニア、ペア、レディース、オープンでファイナル権を得る!」

本格参戦を始め、競技だから成績が残らないと悲しい気分になるし、投げが悪かったり(場外・テンブラ・芝刈り)、また、出走回数が少ないと帰路は「ちー坊(TIGA監督)」が不機嫌な目つきで寝ずに私達を睨んでいることもありました。

いつも楽しんでいる「ゆふ&井上チーム」のプレースタイルに憧れ、お話をさせて頂けるようになって、楽しく愛犬と遊ぶ事が基本で、楽しく遊べていれば、結果もついてくると気づいたのは、秋に入ってからでした。

ウィペットという家族と遊びたいからディスクをやっている、ウィペットという犬種は、ディスクをやらない子も多いし、やらない時もある。我が家の「ちー坊（TIGA監督）」は、どんな天気でもやる気充分、後は投げ手が楽しい気持ちで投げるだけ。

楽しむことだけを考えて入ったペア決勝のコート。予選上位チームの実力は十分に判っていたので、自分達は決勝に残れただけでもラッキー、そんなリラックスした気持ちでゲームができました。担当分のスロー3本はコート内に収まり、ちー坊が戻って来て残り時間10秒位、嫁の最終ショット。

私を見て「チョロ入れるね！」そして、1Pエリアに刺さるような超高速チョロ…

ちー坊（TIGA監督）が、ウィ足使って、キャッチしてくれましたが、デットエリア近くまでオーバーラン。

さすが「……」大爆笑しました。

終わってみれば、上位2チームを逆転して、まさかの優勝！ファイナルに棲む魔物を意識せず、純粋な笑顔で投げられた事が、嬉しい結果につながったと思っております。（ファイナル2日目、3日目には魔物に食われ両名とも撃沈しておりますが…）

結論：やっぱ楽しまなくっちゃね！

いつも応援して下さいの皆様、楽しく野次を投げかけて下さっている皆様、ウィペット仲間みんな、本当にありがとうございます。

ウィペットつながりで、私達（投げ手）を、ここまで育てていただきました、山本両師匠（ご兄弟）、正木師匠、感謝しております。（まくりー撃：チーム居酒屋の皆様にも感謝！）

偉大なるチャンピオンの三本様、井上様、いつも会場で



「笑顔で前向きな姿勢・考え方等」ご指導頂きありがとうございます。

ディスク参戦初心者の我が家にいつも細かいアドバイス＆鋭いつっこみを入れて下さる永田ご夫妻、ありがとうございます。

初心者の私達をかまってくれた、昨年度グラチャンの福本様。ライバル扱いして下さい、本年度グラチャンの高橋様、来期はあまりいじめないで下さいね。

そして「エルフ父ちゃん」が「零(ちー坊の母)」を気に入ってくれたおかげで、ちー坊達が生まれ、ディスクで楽しく遊んでいる。

今では親族以上のお付き合いをさせていただいている、坂上家、本当にありがとう。



●グランドチャンピオンシップ

順位	氏名	犬名	出身地	犬種	ポイント
1	高橋 毅一	vogue	神奈川県	ボーダーコリー	108
2	西山 祐真	サリー	兵庫県	ボーダーコリー	106
3	福尾 光一	BRUCE	岡山県	ボーダーコリー	102
4	杉本 繁郎	ラーチ	北海道	ボーダーコリー	96
5	淀川 和馬	天	和歌山県	ボーダーコリー	94(32)
6	松尾 至	NOVA	長崎県	ボーダーコリー	94(31)
7	五十嵐 誠	チョッパー	茨城県	ボーダーコリー	92
8	嶋田 和憲	MEL	神奈川県	NZハンタウェイ	90
9	井上 弘之	ゆふ	東京都	ボーダーコリー	89
10	川野 辺正	波平	茨城県	ラブラドル	84(22)
11	木村 均	GRATIA	熊本県	ボーダーコリー	84(17)
12	田淵 義博	SOPHIA	京都府	ボーダーコリー	80
13	吉野 義一	ブリッサ	熊本県	ボーダーコリー	78
14	山本 孝治	ナナ	兵庫県	ウィペット	72

上記チームにて決勝

15	吉武 竜司	Stella	福岡県	ボーダーコリー	59
16	渋谷 功	疾風	岡山県	ボーダーコリー	56(8×4)
17	望月 昭吾	FLY	静岡県	ボーダーコリー	56(32)
18	間 禎永	Grass	福岡県	ボーダーコリー	56(24)
19	三本 欽麗	Yupa・Mirauda	東京都	ボーダーコリー	55
20	高木 康市	ANDY	福岡県	ボーダーコリー	54(26)
21	団野 悦郎	心	大阪府	ボーダーコリー	54(23)
22	加藤 典一	日の丸	東京都	ボーダーコリー	54(8)
23	福本 義裕	ミニョン	茨城県	ボーダーコリー	54(6)
24	小峰 泉	けちゃっぷ	埼玉県	ボーダーコリー	52(32)
25	島本 圭悟	Beak	徳島県	ボーダーコリー	52(24)
26	西山 哲也	ハンター	兵庫県	ボーダーコリー	52(18)
27	深谷 浩之	TIGA	岐阜県	ウィペット	51(23)
28	小山 隆	DERRINGER	東京都	グローネンダール	51(20)
29	中村 哲士	恋子	兵庫県	ボーダーコリー	51(26)
30	中川 剛彦	凜子	広島県	ボーダーコリー	51(26)
31	空野 正志	さいら	兵庫県	ラブラドル	51(24)
32	山本 孝治	クク	兵庫県	ウィペット	51(22)
33	阪野 錠一	デビル明日香	愛知県	ボーダーコリー	49
34	福本 義裕	フィーク	茨城県	ボーダーコリー	48(24)
35	青柳 洋平	スヌービー	北海道	ボーダーコリー	48(8×2)
	正木 成人	小菊	奈良県	ウィペット	48(8×2)
37	森脇 俊昭	BAHT	大阪府	ボーダーコリー	48(6)
38	小林 弘典	レック	岡山県	ボーダーコリー	44(33)
39	永田 亨	Willie Kirkland	神奈川県	ボーダーコリー	44(31)
40	瀧浦 慶郎	エール	大阪府	ボーダーコリー	44(18)
41	吉野 義一	モーガス	熊本県	ウィペット	43(24)
42	田口 久善	SENNA	岡山県	ボーダーコリー	43(22)
43	渋谷 功	あんず	岡山県	ラブラドル	43(18)
44	山口 朋孝	RUSTY	兵庫県	ボーダーコリー	42(28)
45	中村 裕司	フラッシュ	千葉県	ボーダーコリー	42(22) [10]
46	三本 欽麗	Raystar・Hose	東京都	ボーダーコリー	42(22) [8]
47	河瀬 重治	ラン	富山県	ラブラドル	42(16)
48	永田 明美	Willie Kirkland	神奈川県	ボーダーコリー	41(18)
49	加藤 徹哉	LYNX	宮城県	ボーダーコリー	41(14)
50	河村 悦郎	淀姫	新潟県	ラブラドル	40(28)
51	東 敏昭	マーク	東京都	ボーダーコリー	40(23)
52	加藤 典一	富士丸	東京都	ボーダーコリー	38(17)
53	中川 成人	クララ	茨城県	ボーダーコリー	38(16)
54	田口 佳奈	LUKE	岡山県	ボーダーコリー	38(6)
55	杉田 健司	ドビー	三重県	ボーダーコリー	37
56	谷越 久仁夫	modern	岩手県	ボーダーコリー	36(22)
57	松本 毅	NOEL	青森県	ボーダーコリー	36(20)
58	加部 真巳	Ma i	大阪府	ラブラドル	35
59	小堀 清和	Twister	千葉県	ボーダーコリー	34
60	間 禎永	Tachyon	福岡県	ボーダーコリー	33
61	増田 健	七福	東京都	ボーダーコリー	31
62	加藤 徹哉	ASH	宮城県	ボーダーコリー	30(16)
63	眞田 知博	Alliecha	千葉県	ミックス	30(14)
64	小井 正	セベリアーノ	大阪府	ボーダーコリー	24(4) [8]
65	久保 晋一	MIYURA	大阪府	ボーダーコリー	24(4) [4]
66	本郷 雅英	楽ら	富山県	ラブラドル	

●フリーフライトチャンピオンシップ

順位	氏名	犬名	出身地	犬種	ポイント
1	高坂 健一	Bond	神奈川県	ラブラドル	184.11
2	水野 友美子	ヴァゼル	岐阜県	ボーダーコリー	168.92
3	山下 靖	Dream	北海道	ラブラドル	158.87
4	森 國拓	華	大阪府	ボーダーコリー	158.31
5	佐々木 雅敏	BoB	福岡県	W.コーギー	152.83
6	杉本 繁郎	グレース	北海道	ボーダーコリー	151.82
7	千葉 光敏	マジック	北海道	ボーダーコリー	151.34
8	高坂 健一	Mist	神奈川県	ラブラドル	149.95
9	田淵 義博	SOPHIA	京都府	ボーダーコリー	147.98
10	千葉 光敏	メロ	北海道	ボーダーコリー	147.44
11	南 浩一	GLORY	兵庫県	ボーダーコリー	142.93
12	邊見 貴行	Peace	東京都	ボーダーコリー	131.38
13	松尾 至	NOVA	長崎県	ボーダーコリー	131.26
14	澤 幹子	綺羅	大阪府	ボーダーコリー	127.29
15	石井 勝久	天天	大阪府	Aシェパード	116.41
16	渡辺 賢次	VIVIAN	茨城県	Aシェパード	101.54

●スモールドッグチャンピオンシップ

順位	氏名	犬名	出身地	犬種	ポイント
1	藤田 篤	Sakura	兵庫県	ジャックラッセル	65
2	海野 真由美	mahana	静岡県	W.コーギー	63[23]
3	林田 知穂	FALCO	東京都	W.コーギー	63[12]
4	小島 宏允	リリィ	京都府	W.コーギー	62
5	神田 陽一	睦月	新潟県	W.コーギー	56

上記チームにて決勝

6	小川 悦郎	CREA	福岡県	ジャックラッセル	41
7	榎 裕博	銀次郎	大阪府	ミックス	40(20)
8	後藤 公彦	鷹	埼玉県	W.コーギー	40(16)
9	藤原 親	ハジメ	東京都	W.コーギー	39
10	平岡 正浩	モモコ	奈良県	柴犬	38
11	佐々木 雅敏	レビン	福岡県	W.コーギー	37
12	四方 田曉美	太陽	熊本県	W.コーギー	36(22) [8]
13	奥山 正一	フェアリー	岡山県	W.コーギー	36(22) [6]
14	赤羽 根伸一	ロビ	東京都	W.コーギー	36(12)
15	溝尾 雅広	Luz	広島県	コイケルボンディエ	33
16	緒賀 友繁	ワンダー	大阪府	ビーグル	30
17	掘井 盛一郎	ぼん太	兵庫県	W.コーギー	28(18)
18	城戸 英二	はな	熊本県	W.コーギー	28(17)
19	畔出 裕隆	Brian	東京都	ジャックラッセル	27
20	佐々木 雅敏	BoB	福岡県	W.コーギー	26
21	藤原 祥子	Rossi	静岡県	W.コーギー	25(11)
22	田代 晃一	りゅっく	熊本県	W.コーギー	25(8)
23	溝尾 雅広	ピース	広島県	W.コーギー	24
24	谷川 勉	もんもん	秋田県	W.コーギー	23
25	古東 優子	Blue-Tiger	大阪府	W.コーギー	22
26	吉田 恭子	ぶる〜ず	大阪府	W.コーギー	19
27	溝尾 美咲	エリス	広島県	W.コーギー	18
28	関 都都子	小太郎	埼玉県	W.コーギー	17
29	大野 健司	サミー	福岡県	W.コーギー	12(12)
30	藤井 陽子	ジルバ	宮城県	W.コーギー	12(8)
31	加藤 智一	クリス	宮城県	W.コーギー	8
32	三崎 彰午	ミュウ	和歌山県	W.コーギー	6(6)
33	松本 博子	チョコビ	埼玉県	W.コーギー	6
34	岡本 邦宏	ショコラ	兵庫県	W.コーギー	0



●レディースチャンピオンシップ

順位	氏名	犬名	出身地	犬種	ポイント
1	福本紗良	ミニョン	茨城県	ボーダーコリー	100
2	須貝ひとみ	Lien	岐阜県	ボーダーコリー	80
3	小川真由美	James Moriarty	静岡県	ボーダーコリー	76
4	大野幸江	レックス	福岡県	ボーダーコリー	74
5	渋谷典代	疾風	岡山県	ボーダーコリー	73(22)
6	泉澤順子	CELEB	岩手県	ボーダーコリー	73(18)
7	三浦杏奈	CHERRY	滋賀県	Gシェパード	71

#上記チームにて決勝

8	西前まな美	SUN	熊本県	ボーダーコリー	50
9	須貝ひとみ	タフィー	岐阜県	ボーダーコリー	49
10	小西和夏	Sunway	大阪府	ボーダーコリー	48
11	森脇美由紀	BAHT	大阪府	ボーダーコリー	46
12	松村涼香	Viva・ガッツ!	大阪府	ボーダーコリー	45
13	有馬智津子	Solan	埼玉県	ボーダーコリー	44
14	渋谷典代	あんず	岡山県	ラブラドル	43(28)
15	松尾直美	NOVA	長崎県	ボーダーコリー	43(23)
16	谷越雪絵	modern	岩手県	ボーダーコリー	43(42)
17	伊原博美	ANDY	千葉県	ボーダーコリー	42
18	井手元ルミ	みゆら	大阪府	ボーダーコリー	41
19	平岩砂也子	セーナ・シェリー	群馬県	ボーダーコリー	40(23)
20	間美加	Grass	福岡県	ボーダーコリー	40(22)
21	中川祐子	クララ	茨城県	ボーダーコリー	39(24)
22	数本典子	ワイルド・ターキー	福井県	ボーダーコリー	39(23)
23	京極明日香	RAYRA	和歌山県	ボーダーコリー	39(18) [8]
24	藤原尚子	朝陽	兵庫県	ラブラドル	39(18) [6]
25	片岡千賀子	ゆ〜り	香川県	ボーダーコリー	38(27)
26	江村富美子	リオ	静岡県	ボーダーコリー	38(22)
27	加藤明美	HANA・美	兵庫県	ボーダーコリー	38(20) [8]
28	平岩砂也子	スカリー	群馬県	ボーダーコリー	38(20) [6]
29	稲葉有紀	フェスタ	滋賀県	ボーダーコリー	38(18)
30	西川順子	ヴィータ	熊本県	ボーダーコリー	37(21)
31	深谷里美	TIGA	岐阜県	ウイペット	37(20)
32	中谷久美子	BoA	大阪府	ボーダーコリー	36(23)
33	加藤静穂	LYNX	宮城県	ボーダーコリー	36(18)
34	貴志朋香	ふぶき	大阪府	ラブラドル	36(16)
35	加藤静穂	ASH	宮城県	ボーダーコリー	35(20)
36	杉本恵子	555	北海道	ボーダーコリー	35(15)
37	松村涼香	ラオウ	大阪府	ボーダーコリー	34(18)
38	安田教子	ガーフィー	神奈川県	ボーダーコリー	34(16)
39	嶋田真希子	MEL	神奈川県	NZハンタウェイ	34(10)
40	福尾舞	BRUCE	岡山県	ボーダーコリー	33
41	福本紗良	フィーユ	茨城県	ボーダーコリー	32(21)
42	片岡千賀子	なつめ	香川県	ボーダーコリー	32(17)
43	長谷川政代	ビーチ♪	埼玉県	ボーダーコリー	31(21)
44	山元満月	Ruber	福岡県	ボーダーコリー	31(16) [6]
45	青田恵子	LIKE	兵庫県	ボーダーコリー	31(16) [4]
46	神谷まつり	蓮汰	熊本県	ボーダーコリー	30
47	杉本美由紀	ウィッシュ	広島県	ラブラドル	28
48	稲葉有紀	ウィंक	滋賀県	ボーダーコリー	26(14)
	三五淑子	アーニー	新潟県	ノバスコシア	26(14)
50	坂上真理	ジュエル	東京都	ウイペット	25
51	菊地敦子	琥珀	青森県	ボーダーコリー	24
52	増田真代	七福	東京都	ボーダーコリー	18
53	福本聡子	petitange	茨城県	ボーダーコリー	15
54	四方田暁美	太陽	熊本県	W.コーギー	11

●こどもの部チャンピオン決定戦(低学年)

順位	氏名	犬名	出身地	犬種	ポイント
1	東出実久	ブラッド	大阪府	ボーダーコリー	96【40】
2	福本巴亜人	ミニョン	茨城県	ボーダーコリー	96【34】
3	嶋田歩優	RX	神奈川県	ボーダーコリー	83

#上記チームにて決勝

4	古野深太郎	SARAH	兵庫県	ボーダーコリー	67
5	吉川響	杏	奈良県	ボーダーコリー	66
6	福本巴亜人	petitange	茨城県	ボーダーコリー	60(36)
7	嶋田歩優	MEL	神奈川県	NZハンタウェイ	60(29)
8	高橋未夢	クリス	神奈川県	ボーダーコリー	52
9	藤原拓海	ニナ	兵庫県	Bタービュレン	24
10	高橋未夢	Rachel	神奈川県	ボーダーコリー	5

●ペアの部チャンピオン決定戦

順位	氏名	犬名	出身地	犬種	ポイント
1	深谷里美・深谷浩之	TIGA	岐阜県	ウイペット	82
2	片岡千賀子・中村哲士	恋子	兵庫県	ボーダーコリー	79【37】
3	松原政代・松原早希	アスター	奈良県	ボーダーコリー	79【30】

#上記チームにて決勝

4	佐久間祥子・西江義博	桜助	神奈川県	ボーダーコリー	42(6×4)
5	渋谷典代・杉本美由紀	疾風	岡山県	ボーダーコリー	42(6×2)
6	江村富美子・江村康秀	リオ	静岡県	ボーダーコリー	35
7	清水佳那・福尾舞	CANDY	兵庫県	ボーダーコリー	34
8	増田真代・増田健	虎之助	東京都	Aシェパード	32
9	古野智子・古野勝久	SARAH	兵庫県	ボーダーコリー	32
10	神谷まつり・高木康市	蓮汰	熊本県	ボーダーコリー	30
11	斎藤美和・大木栄明	小鉄	山形県	ボーダーコリー	29
12	中川由美・中川剛彦	凜子	広島県	ボーダーコリー	29
13	木下ゆみえ・木下誠	REO	兵庫県	ボーダーコリー	25
14	京極明日香・三崎彰午	RAYRA	和歌山県	ボーダーコリー	24
15	山田ヒロ子・河瀬重治	ラン	富山県	ラブラドル	22
16	瀧浦容子・瀧浦慶郎	エール	大阪府	ボーダーコリー	22
17	青田恵子・加藤明美	美ーGo!	兵庫県	ボーダーコリー	20
18	西川順子・四方田竜	ヴィータ	熊本県	ボーダーコリー	20
19	木田明美・森脇俊昭	BAHT	大阪府	ボーダーコリー	15
20	外崎玲子・外崎晃	バルカ	山梨県	ボーダーコリー	10

●シニアドッグの部チャンピオン決定戦

順位	氏名	犬名	出身地	犬種	ポイント
1	宮迫裕二	IVY	京都府	ボーダーコリー	83
2	村上幸三	ゲルファ	岡山県	Gシェパード	75
3	山本勝	モネ	静岡県	ダルメシアン	73
4	越村義彦	天山	石川県	ボーダーコリー	71
5	山口裕二	さくら	神奈川県	ラブラドル	67

#上記チームにて決勝

6	福原芳郎	ミミ	兵庫県	ジャックラッセル	47
7	小山隆	アイス	東京都	グロウンダー	45
8	稲葉秀昭	ウィंक	滋賀県	ボーダーコリー	42
9	中川剛彦	菜々子	広島県	ラブラドル	41
10	寺裏欽人	JOY	奈良県	ラブラドル	40
11	荻野隆行	ココ	大阪府	ラブラドル	38
12	正木成人	さくら	奈良県	フラットコート	37
13	山本栄治	ラッキー	兵庫県	ダルメシアン	34
14	竹内正徳	POLY	福岡県	ボーダーコリー	32(16)
15	近藤高弘	クッキー	広島県	ラブラドル	32(14)
16	深谷里美	SEVEN	岐阜県	GSポインター	30
17	山田芳樹	Can²	岐阜県	Aシェパード	27
18	八木卓也	エビア	兵庫県	Aシェパード	24
19	田淵義博	KNIGHT	京都府	Aシェパード	20
20	福本紗良	ラッキー	茨城県	ボーダーコリー	18(18)
21	古野智子	RUDY	兵庫県	ボーダーコリー	18(4)
22	小野晃弘	しま	茨城県	ボーダーコリー	17
23	杉田健司	チャンプ	三重県	ボーダーコリー	13

●こどもの部チャンピオン決定戦(高学年)

順位	氏名	犬名	出身地	犬種	ポイント
1	八幡瑛菜	マイクロ	兵庫県	ストロングアイ	104
2	松下美空	テリュース	神奈川県	ウイペット	94
3	野村昌矢	アイラ	兵庫県	ラブラドル	86

#上記チームにて決勝

4	有馬勇次	ソラン	埼玉県	ボーダーコリー	48
5	三浦菜林	CHANEL	滋賀県	Gシェパード	42(18)
6	井上創	ビビ	兵庫県	W.コーギー	42(16)
7	光井奏太	TEANA	大阪府	ラブラドル	22
8	八幡瑛菜	ファイン	兵庫県	ボーダーコリー	18

●ユースオープンの部チャンピオン決定戦(個人)

順位	氏 名	犬 名	出身地	ポイント
1	須貝 信也	Lien	岐阜県	95
2	新津 芳博	Wild Beast	静岡県	87
3	谷越久仁夫	環菜	岩手県	86
4	安心院創一郎	ジュリア	岐阜県	85(23)
5	上田 彰	SANTA	大阪府	85(21)
6	梅田 浩一	RAY	大阪府	84
7	木下 誠	REO	兵庫県	75

上記チームにて決勝

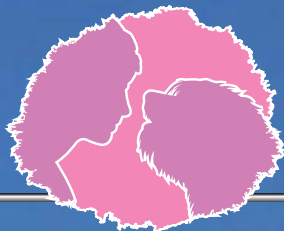
8	藤原 洋喜	クリス	兵庫県	60
9	清田真里菜	ルナ	福岡県	59
10	島本 圭悟	Paul	徳島県	53
11	今村 武史	Mercury	大阪府	52(30)
12	片岡千賀子	ゆ〜り	香川県	52(21)
13	越村 義彦	天山	石川県	48
14	佐藤 広	ELAN	新潟県	47
15	室 巻 浩	ルキ	東京都	46
16	助定 潤司	モナ	兵庫県	45
17	嵯峨 直樹	モモ	京都府	44(30)
18	淀川 和馬	ラム	和歌山県	44(26)
19	森脇 俊昭	REAL	大阪府	44(20) [10]
20	中川 成人	Jerry Rice	茨城県	44(20) [8]
21	津野 瀬洋	SENNA	神奈川県	44(20) [6]
22	油利 享	アル	滋賀県	44(19)
23	青田 恵子	LIKE	兵庫県	44(16)
24	小泉 一弘	シェイク	千葉県	43
25	東 條 浩一	ライズ	三重県	42(27)
26	藪本 健	ワイルドターキー	福井県	42(22)
27	小林 郁夫	ティアラ	広島県	42(18)
28	山崎 光	天花	高知県	42(16)
29	小 峰 泉	あどるふ	埼玉県	41
30	福本巴亜人	ミニョン	茨城県	40(28)
31	松原 政代	アスター	奈良県	40(22)
32	福田 吉宏	スタン	東京都	40(18)
33	高桑 真紀	☆B☆	大阪府	40(15)
34	吉川 正彦	VODKA	兵庫県	39(19)
35	河村 悦郎	Anger	新潟県	39(18)
36	千葉真美子	ブラック	北海道	39(16)
37	松下 幸喜	テリウス	神奈川県	38(38)
38	井原 由湖	コスモ	佐賀県	38(22)
39	茶木千絵子	ベリ	滋賀県	38(20)
40	西 前 誠	SUN	熊本県	37
41	王 秀花	フェアリー	京都府	36
42	河瀬 重治	ももんちん!	富山県	35
43	河上 徳次	Luoin	福岡県	34(18) [8]
44	保科 憲子	OTTEY	東京都	34(18) [6]
45	古野 智子	SARAH	兵庫県	34(12)
46	原田亜希子	凜桜	青森県	33(20)
47	井手元ルミ	みゆら	大阪府	33(12)
48	太田 優希	ティナ	岡山県	32(24)
49	外崎 玲子	パルカ	山梨県	32(22)
50	平野 正憲	ライト	神奈川県	32(20)

51	稲葉 秀昭	ミント	滋賀県	32(15)
52	加藤 智一	ボン娘	宮城県	32(8)
53	亀井 伸介	ウェンディ	三重県	31(23)
54	中島 忠彦	G・F・DOR	滋賀県	31(16)
55	田中 俊彰	秀	岡山県	31(15) [8]
56	楠 典親	サン	三重県	31(15) [6]
57	大木 栄明	アンディ	山形県	31(12)
58	五十部定年	モンロー	福岡県	30(24)
59	深谷 里美	555	岐阜県	30(18)
60	西江 義博	桜助	神奈川県	30(12)
61	中村 信子	フラッシュ	千葉県	30(10)
62	上野 平寛	LEON	佐賀県	29(22)
63	八木 圭助	マナ	兵庫県	29(16)
64	西前まな美	まる	熊本県	28(24)
65	稲屋 浩明	Chris	愛媛県	28(20) [8]
66	佐野 宏之	Peko	新潟県	28(20) [6]
67	貴志 修	さくら	大阪府	28(18)
68	伊都和美	KAGUYA	和歌山県	28(16)
69	福本 聡子	NOA	茨城県	28(15)
70	稲葉 有紀	ミント	滋賀県	28(14)
71	尾崎 真純	Rosario	北海道	28(10)
72	八幡 誠	マイクロ	兵庫県	28(8)
73	岡本 俊之	陽菜	京都府	27(10) [6]
74	門田賢一郎	Tacky	宮城県	27(10) [6]
75	藤原 沙織	ニナ	兵庫県	27(10) [6]
76	関 浩寿	小龍	埼玉県	27(5)
77	林田 知穂	NUEVO	東京都	27(4)
78	福本 義裕	petitange	茨城県	26(26) [8]
79	河野 和則	ラブ	大阪府	26(26) [8]
80	佐藤 健	きら☆	山形県	26(21)
81	浅田 潤也	ファイン	神奈川県	26(18)
82	佐久間祥子	アクセル	神奈川県	26(18)
83	東 出 拓也	ブラッド	大阪府	26(12)
84	馬場 善浩	クララ	神奈川県	26(8)
85	河波 美佐	ルビィ	和歌山県	26(8)
86	大岩 真一	海	千葉県	26(6)
87	藤井 陽子	マンボ	宮城県	25(14)
88	竹山 高司	RIN	兵庫県	25(0)
89	中谷 一友	Boa	大阪府	24(16)
90	小泉 和子	シェイク	千葉県	24(13)
91	藪本 典子	ピクシー	福井県	24(12)
92	馬場由紀代	クララ	神奈川県	24(10)
93	山本 栄治	シータ	兵庫県	24(16) [8]
94	鮫島 清宏	WINDY	兵庫県	24(16) [6]
95	菊地 浩樹	琥珀	青森県	24(4)
96	久保 晋一	MODENA	大阪府	23(12)
97	石塚 慎也	ナル	山形県	23(10)
98	原田 千明	銀	青森県	23(9)
99	町田 千成	シェビィ	群馬県	23(8)
100	柏木真理子	CLIFFORD	青森県	23(6)
101	石松 貴夫	クラウド	福岡県	22(22)

102	楠本 安子	レイチェル	広島県	22(11)
103	佐野 良恵	Peko	新潟県	22(7)
104	松浦 哲也	うらん	京都府	22(6)
105	宇 恵 薫	Figaro	静岡県	22(0)
106	川越 哲男	Layla	山形県	21(14)
107	上野平ミユキ	LEON	佐賀県	21(12)
108	片岡 裕貴	なつめ	香川県	20(20)
109	入江 克実	みらん	静岡県	20(13)
110	小川真由美	Holmes	静岡県	20(12)
111	河波 弘隆	ルビィ	和歌山県	19(14)
112	古野 勝久	SARAH	兵庫県	19(12) [8]
113	木村 哲也	風子	神奈川県	19(12) [4]
114	江村 康秀	キャンディ	静岡県	19(9)
115	田中 時子	ウッディー	奈良県	18(13)
116	加島 喜裕	なぎさ	大阪府	18(12)
117	倉田 達郎	ガンジー	広島県	18(12)
118	清水 昭男	CANDY	兵庫県	18(11)
119	滝 修二	サンバ	愛知県	18(4)
120	小西 健志	Comete	大阪府	18(0)
121	田中 勝則	遼	兵庫県	17(17)
122	横山 俊之	サフィー	岡山県	17(14)
123	牛島由加里	A X S	福岡県	17(1)
124	福田 智穂	スタン	東京都	16(16)
125	間 美加	Digital	福岡県	16(4)
126	松浦 茂	コビィ	広島県	16(4)
127	森山美代子	マリア	長崎県	16(4)
128	富永 和彦	クイート	奈良県	15(7)
129	千葉 光敏	メロ	北海道	14(6)
130	松本 毅	MICHEL	青森県	14(6)
131	井原功一郎	コスモ	佐賀県	14(0)
132	島村 葉子	ミルフィー	京都府	13
133	東 恵 美子	小次郎	熊本県	12
134	中村 清則	JACK	宮城県	11(4)
135	友田実津江	リラ	奈良県	11(1)
136	磯田 正勝	空	奈良県	10(3)
137	木田 伸弥	NEO	大阪府	10(0)
138	飯村 聡	にこ	神奈川県	9(9)
139	石田 豊	マリー	福井県	9(6)
140	和田陵太郎	華鈴	福岡県	8
141	宮越 芳信	なお	新潟県	6
142	川江 勝	ジェジェ	大阪府	6
143	齋藤 克彦	ランディー	山口県	4
144	田尻 俊司	Goofy	広島県	4
145	角田 琢磨	黒丸	埼玉県	3
146	深谷 浩之	みる	岐阜県	0

●ユースオープンの部チャンピオン決定戦(団体)

順位	住 所	氏 名 & 犬 名			ポイント
1	大 阪 Ⅱ	上田 彰 & SANTA 河野和則 & ラブ	森脇俊昭 & REAL 高桑真紀 & ☆B☆	井手元ルミ & みゆら	41.4
2	四 国	島本圭悟 & Paul 片岡裕貴 & なつめ	山崎 光 & 天花 稲屋浩明 & Chris	片岡千賀子 & ゆ〜り	39
3	兵 庫 Ⅰ	木下 誠 & REO 藤原沙織 & ニナ	竹山高司 & RIN 山本栄治 & シータ	吉川正彦 & VODKA	35.2



Discdog Worldcup

DAEGU World
PET Industry EXPO 2007

2007.10.19~20

DAEGU Worldcup Stadium

10月18日・19日・20日韓国はテグ市にてワールドチャンピオンシップが開催されました（本選大会は19日20日）。テグ市は、あまり日本では、聞き慣れない都市ですが、韓国では3番目の大都市ということで、日本いうと名古屋といったところでしょうか？

今回の国際遠征は、過去最多の参加チーム数&犬頭数となり、関空からの出発チームが一番多く、出国や検疫&入国の際のトラブルが心配でしたが、各参加者・犬ともトラブルも無く一時間半のフライトで仁川空港に無事到着しました。

現地では、韓国フリスビードッグ協会のスタッフの皆さんが横断幕を持ってのお出迎えで、ちょっと感動。昼一時過ぎには、犬達も無事入国検査もパスして空港の周りで糞尿を済ませ、バス2台で「いざテグ市に!!」

…と思ったが、なかなかバスが出発しない！

テグ市までは、400km。大型バスなら5時間かかるはず。「なぜ出発出来ないの？」と通訳の方に聞くと、仁川空港に各国々の参加者が集結してそれから出発するというこらしい…。

待つこと3～4時間（これまた疲れた）、いよいよ

出発。400kmの道中は、休憩は一回のみ。韓国

のバスの運転手さんは、飛ばす!飛ばす!!メー

ターが110キロでビタッと止まったままだ。

道は広いしアップダウンも少ないが、110キロのままだ…。

Challenge 2007 in KOREA

2007年10月19日(金)・20日(土)の二日間にわたり、韓国テグ市「テグワールドカップスタジアム」にて、世界選手権が開催されました。

今大会は、韓国テグ市実行委員会が海外選手に対して宿泊費、食事、韓国国内における交通費等の負担するという形で実現したもので、世界6カ国から60名の選手が集まり、まさに「ワールド」と言う名にふさわしい大会となりました。

定刻どおり5時間ぐらいでホテル到着でした。

ホテルは、郊外の標高の高い山の上にあり、かなり気温が低い。真冬並みの寒さでこれまたびっくり。犬と部屋の中で寝るから、まあ仕方ないか…。

この日は、参加者も移動の疲れで夕食を取ってそこそこの時間に就寝しました。明朝は、8時出発。ホテルから会場までは約30分。大会会場は、最高な会場で、日本でもこんな会場で出来れば良いと思いながら会場に入りました。

芝の状態も最高で、参加者待機テントもフィールドの横と最高によく見える！ここ2年足らずで、この会場を用意し、これだけの大会を運営された、韓国フリスビードッグ協会の成長には、驚きました！

パクさんを初め、通訳のリーさん、スタッフの皆さんの頑張りで、たった2年足らずでワールドチャンピオンシップの舞台を用意し、運営するとは、流石の一言です。

今回のワールドチャンピオンシップで感じた事は、ディスタンス競技については、「日本のレベルは世界一だなぁ～」と確信しました。

また、アジア(韓国・台湾)の技術的なレベルアップにびっくりでした。

フリーフライトに関しては、日本人の持ち味である“器用さ”を前面に出した、アメリカンフリーには無い『ジャパンスタイル』のフリー演技が確立してきたように思います。本場アメリカのフリー・プレイヤー達もそう思ったことと思います。

今後ディスクドッグスポーツが、世界中に普及し、発展し、もっともっと国際大会が世界で行われるようになってほしいと思います。と同時に、ディスクドッグの楽しさを世界中の人に伝えたいと思います。

JFA関西本部長 団野悦郎

Distance Champion ships Result

順位	氏名	犬名	犬種	出身地
優勝	田口 佳奈	LUKE	ボーダー	岡山県
2位	正木 成人	小菊	ウィペット	奈良県
3位	高木 康市	ANDY	ボーダー	福岡県
4位	Hang Sang jun	Jocker	ボーダー	韓国
5位	Lee surk joon	Ricky	ラブ	韓国
6位	団野 悦郎	心	ボーダー	大阪府
7位	木村 均	GRATIA	ボーダー	熊本県

以上、決勝進出

8位	中島 忠彦	G・F・DOR	ラブ	滋賀県
9位	助定 潤司	モナ	ボーダー	兵庫県
10位	山本 孝治	クク	ウィペット	兵庫県
12位	団野 悦郎	Hitomi	ラブ	大阪府
13位	山本 孝治	ナナ	ウィペット	兵庫県
14位	神谷まつり	蓮汰	ボーダー	熊本県
15位	田中 勝則	遥	ボーダー	兵庫県
16位	正木 成人	さくら	フラット	奈良県
20位	田中 勝則	遼	ボーダー	兵庫県
24位	中島 靖博	レガリス	ボーダー	滋賀県

World Cup Challenge Result

順位	氏名	犬名	犬種	出身地
優勝	Kazunori Chiba	gaia		
2位	Yoshihiro Ishida	rusty		
3位	Matt Diano	maggie		
4位	Todd Duncan			
5位	Hiroaki Kuroda	feel		
6位	友広 祐也	JET	ボーダー	北海道
7位	宮田 郁子	マーチ	ボーダー	北海道
8位	早川 利幸	BEAT	ボーダー	千葉県
9位	Takayuki Muranaka	Ken		
10位	田淵 義博	SOPHIA	ボーダー	京都府

以上、決勝進出

12位	高坂 健一	Mist	ラブ	神奈川県
14位	水野友美子	ブラッド	ボーダー	岐阜県
15位	水野友美子	ヴァゼル	ボーダー	岐阜県
18位	高坂 健一	Bond	ラブ	神奈川県
20位	南 浩一	Glory	ボーダー	兵庫県
23位	工藤 祐也	トム	ボーダー	北海道

※ 青文字がJFA出場選手

Results

DAEGU World PET Industry EXPO 2007

Discdog Worldcup Challenge 2007 in KOREA



ディスタンス部門 優勝

田口佳奈 & LUKE

公式戦に出るようになってからもう6年がたちましたが、今シーズンほど調子の悪かったことは今までになかったと思います。自分なりにいろいろ悩んでる時期もあって、韓国に行くこともあまりノリ気じゃありませんでした。

そんな中、手続きは着々と進んで、気分も乗らないまま韓国へ行く日を迎えました。朝早く起きて、車→船→バス→飛行機→バス…ホテルについたのは夜。

移動だけで1日が終わって、本当に疲れました。でもそれは佳奈だけでなくLUKEもそうで、飛行機のと、バスのあと、ホテルについてから、LUKEはとても疲れてる様子で、すごく申し訳ない気持ちになりました。

正直その時は韓国に来たことを少し後悔したけど、それと同時に、「こんな思いをしてまで来たんだからせめてフリスビーをしてる時くらいLUKEとおもいきり楽しみたい」と思いました。

勝負とは違う意味でとてもやる気ができました。

2日間にわたって行われた大会。予選・決勝合計4R。正直まったく緊張しませんでした。いつもの大会なら「がんばってね」「優勝してよ」とか言われたらどんどんプレッシャーになるのに、今回はそんな事言われても、軽く流せちゃうくらいでした。ただ、LUKEとプレーすることへの楽しさだけが、どんどん増えていきました。

結果、終わってみれば4Rパーフェクトで2位と大差をつけた優勝。ただ楽しかったです。だから優勝って言われても実感があんまりわなくて、嬉しいとかもよくわかりませんでした。

でも、テントに戻ってみんなが「おめでとう！」と言ってくれて、とても嬉しい気持ちになりました。日本に帰ってから大会で会うとみんな「佳奈ちゃんおめでとうー！」と言ってくれて、すごく嬉しかったです。

そして今回1番自分にとってタメになったことは、もちろん優勝できたことも嬉しかったけど、それよりも何か自分の中で、フリスビーに対して、LUKEに対しての気持ちが変わった気がします。

韓国に行ってきた三重大会、奈良大会、すごく調子がよくて、みんなにも「韓国から調子戻ってきたねー」って言われて、自分でもそう思いました。

やっぱり自分の中でなにか気持ち的にひっかかることがあったんだろうなと思いました。それを取り除くことができ、これからは今までとはまた違う気持ちで大会を楽しめる気がします。

LOVEやSENNAと積み上げてきた楽しい思い出、悲しい思い出、そしてLUKEと出会ってまた自分の中で新しい何かを学んだ気がします。

最後になりましたが、応援してくださったみなさん、本当にありがとうございました！！

一緒に韓国へ行った選手の皆さん、お疲れ様でした＆お世話になりました＆ありがとうございました！！

そして、お父さん、お母さん、らぶちん☆せな☆るーちゃん、ありがとっ！！

来シーズンもKANALUKEをよろしくお願いします
m(____)m♪！！



ディスタンス部門 準優勝

正木成人 & 小菊

『Discdog Worldcup Challenge 2007 In Korea』夢の大会あれは三重県伊賀上野での大会だと記憶していますが、当時第一回日韓戦優勝の実績を引提げて大会参加の山本&ナナチームを皆で応援しようじゃないかとゆうことで、韓国応援ツアーを組む話で盛り上がっていました。私も家内と一緒にグルメツアーも出来るだろうと応援ツアー参加の意向を固めていました。でも、まさか、さくらと小菊の二頭を連れての参加にまで進んで行くとは…。関西からは團野&HITOMI、心チームを筆頭に田中&遥、遼チーム、助定&モナチーム、そして、前年シリーズチャンピオンの田口佳奈&LUKEの最強チームが参戦すると決まり「同じ韓国に行くならば出場せな」と山本さんに勧められ参戦を決めました。なんと無謀なチャレンジだと家内にも笑われながらの大会参加になりました。

さあ、それからは検疫のための作業にはいったが、何せ初めてのことで。インターネットを駆使しひとつずつ書類を揃え、チップの埋め込み・狂犬病の予防接種・抗体検査と何度も何度も獣医さんに足を運び渡航準備を進めていった。もしも書類に不備があり、出国検疫で止められやしないか、日本入国の際に何も問題無く帰ってこれるのだろうか等と不安をいっぱい引き

きずって出発当日を迎えた。

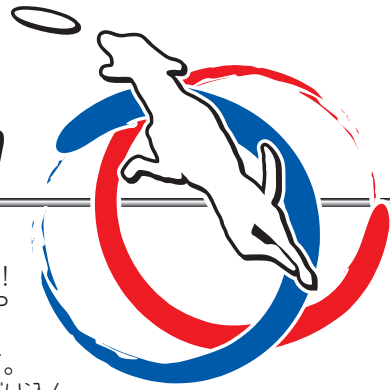
でも、そんな不安を吹き飛ばしてくれたのは、大会初日まだ薄暗い早朝送迎バスに乗り、そして40分後車窓から目にした会場のDaegu Worldcup Main Stadiumの文字だった。日韓ワールドカップ開催の地、あのブラジルのロナウジーニョが走り回った。シュートをした。あの60,000人のサポーターに感動と興奮を与えた夢のスタジアムへとうとう来てしまった。「俺が、夢？」それが正直な感想であった。そして、会場内へ一歩踏み入れた瞬間どこまでも広い、広い、オレンジのトラック。そのトラックに囲まれ本当に素晴らしく輝いているグリーンのコートに「すごい」の言葉しか周りの人達からも聞こえてこない。自身の気を落ち着かせるのにどれくらい経ったのか、気がつけば周りで参加選手たちがスローイングの練習をしている。さくら、小菊をケージに入れ開会式を待つ、やっと落ち着いてきた。プログラムを開くとさくら14番、小菊27番、エントリー最終組である。

開会式が終了しいよいよ競技のスタート。1番エントリーの山本&ククチームのスローイング、キャッチで世界選手権、韓国での戦いの火蓋がきられた。スタートから大声援の盛り上がりの中、高木&ANFY 36P、田口&LUKE 35Pと続く。

いよいよ27番小菊のコール。「とにかく一投目だ。真直ぐに飛んでくれ…」ミドルエリアで小菊がキャッチ！この5Pから小菊と私の世界選手権が始まった。

1R30Pにて終了、ホットー息。初日は2ラウンドを終了して計53P。2R目、第1投目小菊がこの大会中でフアンブルした唯一の1投…。

2007.10.19~20/at: DAEGU Worldcup Stadium



初日無事終了、良く走ってくれた。お疲れさん。バスにて帰路に着く。ホテル到着後オンドルと呼ばれる韓国式の床暖房の効いた部屋へ。さくら・小菊も一緒に入室。部屋が乾燥して少し鼻が詰まってきた。夕食は何だったろう？チゲ鍋のようだった。

翌朝、昨日同様早朝から準備をしてバスに乗り込む。寒い、とにかく寒い。気温4度とか誰かが言っていた。今日は流石にパッチを穿いてしまった(実はYu~? ままにプレゼントして貰った)今日は決勝、吐く息が白い、やはり気温はかなり低い。身も心も引き締まるコンディションは、"良"。

いつもの大会と違って予選要則の3ラウンドとなり二日目の大会が始まった。昨日1R 36Pの最高ポイントを出した高木ANDYチームの調子が上がってこない、今日の1R目も23Pと伸びない。田口&LUKEチームは変わらず凄いポイントを出してきている。昨日は2R合計71Pと群を抜いている。今日もいきなり34Pを出してきた。予選の3Rで105P、他の追従を許さない。

27番小菊の出番。5投パーフェクトスローすれば必ず小菊が捕ってくれる。そう信じた。気合を入れて小菊とコートへ6, 6, 6, 5, 8 計31P、この時点で韓国のHan sang jun & Jockerチームの86Pに続いて、84Pで第三位の位置にて決勝へ残ることが出来た。フリーのゲーム終了後、決勝進出者の呼び出しがあり、泣いても笑っても韓国での最終ゲーム。「悔いの無いゲームをやろうな」と小菊の鼻先にKissをした。

決勝戦、團野&心 24P、木村&Gratia 19P、Lee(韓国)&Ricky 32P、ここでさすがに実力者高木&ANDYチーム、キツチリとまくなってきての34P。

そして小菊31P。この時点で高木&ANDYチームと同ポイントで並んだ。Han(韓国)&Jocker 32P、そして予選トップ通過の田口&LUKE、2投決めれば優勝。

なんと6, 8, 8, 8, 8 38P、合計143P。文句なしの優勝田口選手(あえて佳奈ちゃんと呼ばせてもらいますが佳奈ちゃんのあんなににこやかなリラックスして投げ抜いた顔を国内の大会では見たことがありませんでした。)

本来はこの時点にて優勝 田口選手、2位 Han選手、そして3位・4位のエキストラに高木 VS 正木の組み合わせが決まり、緊張と興奮は頂点に達した。

3位と4位では天と地の差。二人とも今までに無い真剣な表情だったと思う。しかし此処で場内にざわめきがおきた。田口選手のウイングランの最中に韓国のHan選手のポイントの訂正があり28Pに…、合計114Pと場内放送、我々のポイントを1P下回り高木 VS 正木は2位・3位決定戦となったことが確認された。周りの声援は「もうええで〜、ジャンケンで決めたら」との冗談めいた声も上がっていた。正真正銘の最後の対戦、先行は高木&ANDYチーム。5, 8, 8, 8の4投29P。凄いポイントを出してきた。

続いて小菊の出番。「走ってくれるかな??」不安の中4投を投げ込んだ。本気モードの小菊が走って捕って8, 5, 6, 8で27P。



この最後の1投で…、びびった！ふわっと上がったディスクが4Pエリアに…。「小菊！頼むぞ」…見事にキャッチ。結果31Pにて終了。

2ポイントの小差で準優勝が転がり込んできた。表彰式では本当に立派な準優勝プレートと賞金を授与され、感涙にむせてしまった。この二日間長旅と慣れない環境の中で、最後の最後までディスクを追いかけてくれた"小菊"「本当に有難う。」

私にとって夢の大会となった世界選手権。男前！の高木ANDYチームと関西弁の大声援の中でエキストラまで出来たことが今年最高の思い出となりました。沢山の声援有難うございました。

こんなに素晴らしい大会に連れてきて頂きました山田会長を始めJFA日本フリスビードッグ協会の皆様、そしてこの大会を主催して頂きましたKFA韓国フリスビードッグ協会様、本当に有難う御座いました。そして現地にいっぱいサポートをして頂きましたスタッフの皆様、本当にご苦労様そして有難う御座いました。心より感謝とお礼申し上げます。



ディスタンス部門 第3位

高木康市 & ANDY



韓国、一度は行ってみたいと思った国でした。

一番心配だったのは、ANDYにとって初の海外、短時間とは言え「嫌いな飛行機で大丈夫か？」と思っていましたが、よだれ程度で思ったほど疲れもなく落ち着いていたのでホッとしました。

空港から400kmもあるテグ市、長旅になりましたが着いてみると素晴らしい会場。とても綺麗な芝、さすが「ワールドカップ サッカースタジアム」。ここで、プレーができるとすると、ここ3ヶ月位前から下降気味だった気持も吹き飛び、久々の1R36P。ANDYとの最高のゲームができました。

次も同じゲームメイクと思って臨んだ2R、やっぱり元に戻った感じ、続く3Rも…。

こんなことでは終われない、4投犬ANDYとのゲームメイクだけしようと思い入ったFR、「グッジョブ」。沢山の方の声援が聞こえました。

自分自身を信じ、パートナーを信じる事で最高のプレーが出来たと思います。そして、ともに戦った仲間達、ハートの熱い韓国プレーヤー、僕にとって刺激のある大会でした。こんな楽しい経験をさせてくれたANDYに感謝!!

最後に、JFAスタッフの方、仲間のプレーヤーの方、4日間お世話になりました。

また時間も参戦したいと思います。

2007年度 ご協賛をいただき、ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

年間協賛

ニッケペットケア株式会社
ネスレ ピュリナ ペットケア株式会社
ライト株式会社
ブラックウッドジャパンコーポレーション
株式会社 三栄コーポレーション
有限会社 神戸工房
株式会社 クリエイティブステージ
有限会社 篠原染工
有限会社 拓志

特別協賛

むつみグループ
小岩井農場まきば園
南魚沼市観光協会
八海醸造株式会社
株式会社 雪国まいたけ
JA魚沼みなみ
株式会社クレブ
六日町健康増進センター清流館
ディオワールド草津店
有限会社 八木凸版印刷
NPO法人 KNOTS
フィールドゲインズ ドッグフード
DOG PAPA
六甲山カンツリーハウス



日本フリスビードッグ協会

〒951-8133 新潟市中央区川岸町3丁目17番29号
TEL.025-234-2100 FAX.025-234-2101
URL <http://www.frisbeedog.co.jp>